備中国新見荘における正中二年検注帳の地名について

髙橋傑

Abstract

はじめに

備中国新見荘は、現在の岡山県新見市を中心として存在していた荘園で、京都の東寺に伝来する東寺百合文書に多数の関連史料があり、それらを活用した多数の研究が蓄積されている[1]。その中で、検注帳に現れる豊富な地名史料を用い、現地に即した研究が多くなされている点も特筆すべき点である。

この新見荘の検注帳の中で、最も多くかつ詳細な地名を載せるのが、下地中分後の正中二年（一三二五）に、地頭方（東方）で行われた正検注の際に作成された検注取帳とそれに基づく名寄帳である[2]。この検注帳は、新見荘の他の検注帳と比較して、非常に詳細な地名を載せており、新見荘の地名研究においてもっとも基本的な史料となっている。

この検注帳を利用した研究としては、代表的なものとして、竹本豊重氏[3]と浅原公章氏[4]のものがあげられる。また、近年似鳥雄一氏もこれを利用して新見荘の下地中分の全容を検討しており[5]、拙稿においてもこれを利用した[6]。

竹本・浅原両氏の研究は、検注帳地名の現地比定に基づいて、景観や名の復原において大きな成果をあげているが、双方の比定が異なる場合もあり、第三者としてどちらの説を採るか判断に迷う場合がある。このことは、新見荘における中世地名の利用において、正中検注帳が地名比定の基本的な史料であるにも関わらず、中世地名に基づいた研究が行われにくい状況が生まれているといえよう。

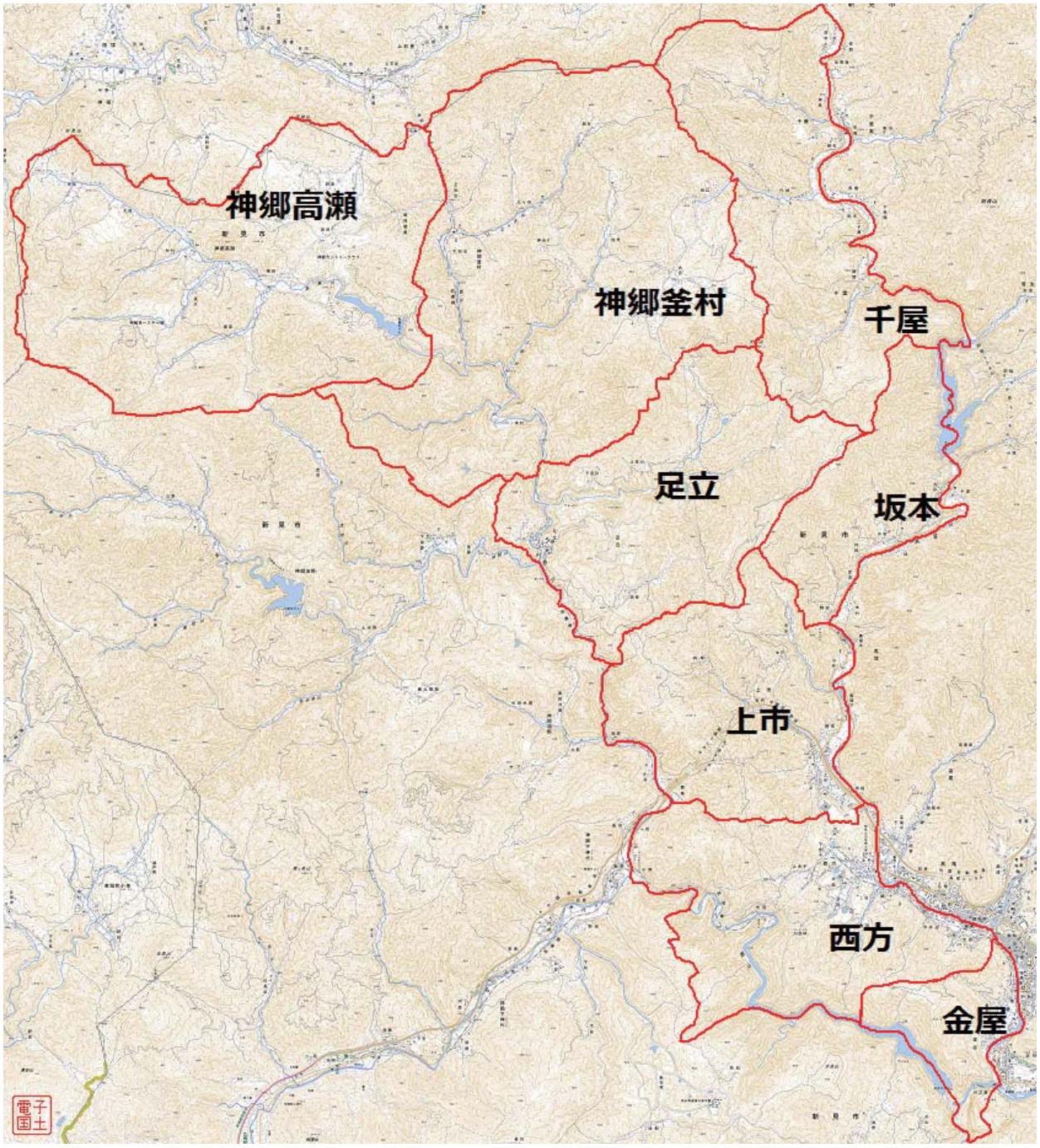
そこで本稿は、正中二年検注帳の地名の現地比定を、第三者が検証可能な単純な方法で、かつ予想も含めて網羅的に行っていきたい。

まずは、竹本氏や浅原氏が活用している岡山地方法務局高梁支局にある土地台帳（以下、旧土地台帳）[7]を全面的に利用していく。これは、明治期における一筆ごとの地名地目などを集めた資料であり、現行の地番と対応するため、現代においても非常に利用しやすい史料となっている。この旧土地台帳のなかから、正中二年検注帳地名を拾い上げ、地図におとしていく。

地名を地図におとしていく際には、新見市役所の航空写真図[8]と切り絵図[9]、さらにゼンリン住宅地図を用いて現行地番の場所の特定を行う[10]。これらは現行の地番を地図におとしていくうえで欠かせない資料であり、誰でも閲覧可能なものである。

但し、多くの検注帳地名はこの作業を経てもなお現地比定できない。そこで、この検注が、検注使が現地を巡りながら順番に耕地を記録していったものと考え、旧土地台帳によって現地比定できない地名も比定を行った。このような手法は、竹本氏が新見荘の矢谷集落で用いており、さらに榎原雅治氏が播磨国矢野荘で、須磨千穎氏が賀茂別雷神社境内諸郷で、全面的に展開している[11]。

この検注は、正中二年二月二二日～四月九日まで行われ、検注の大まかな順路は、上市地区からスタートし、坂本、千屋、釜を経て高瀬に至り、同じ順路を上市へと戻ってくる、というものである。そして、行きは畠地の検注を中心に行い、帰りは田地の検注を中心に行っている。そのため、同じ地名を二度通過していることが多い。このことも現地比定の参考とした。さらに、



新見荘の地域

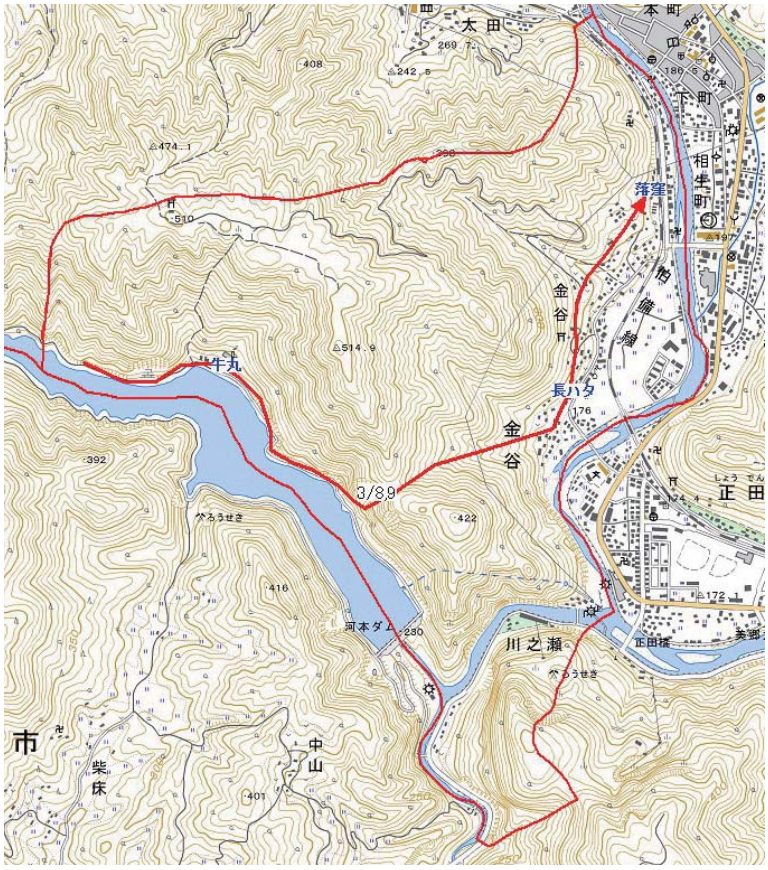
本稿では、新見荘故地の様々な地名を呼称する際、おおよそ現行の大字に対応するエリアを地域と呼称し、各集落にあたる地名を地区と呼称した。

以上の作業を経ても比定出来ない場合、現地の地形や寺社の位置なども参考とした。

このように、すべての地名の現地比定を目的としたため、予想も含めて比定の根拠は様々なものとなった。そのため、比定の根拠はすべて示すこととした。

検注日ごとの経路と地名比定

正中検注帳の地名比定を行うにあたっては、検注が行われた日ごとに地図と表を示していく。地図には検注が行われた順番をのせ、表にはその順番に対応する検注地名と、その現地比定理由を示していく。表の「旧土地台帳」欄には、正中検注帳地名に対応する旧土地台帳の地名を示し、旧土地台帳に対応する地名がない場合は、「予想」とした。「予想の根拠」欄には、地名の現地比定の根拠を記した。



金屋周辺の検注順路

また、この検注においては、水田を本田と新田、畠地を里畠と山畠に分けて把握している。屋敷地は把握していないが、屋敷に関わる地名で水田や畠地を把握している。これらに関しても、各日の特徴を簡単に説明していく。

但し、現金谷地区で行われたと考えられる三月七日の後半、八日、四月六日の後半、九日に関しては、地名の比定を断念した。これらの日付に見られる地名のいくつかが金谷地区に見え、また新見荘の南隣の石蟹郷との堺を示す「石蟹堺」という地名が見えることから、金谷地区周辺で行われたことは間違いないが、旧土地台帳に見られる地名が非常に少ないため検注の順路からの地名復原は断念した。

いくつか見える地名を地図におとしたのが、上の地図である。このことから、金谷地区の主たる平地には、地名が見られないことがわかる。この平地部には、旧土地台帳に「東寺田」や「伊勢田」といった地名が見える。東寺は西方＝領家方の領主であり、伊勢田は文永八年検注帳[12]にみえる「由世里」の転訛と考えられ、いずれにせよ平地部は領家方である可能性が高いと言えよう。そのため、地頭方の検注帳である正中検注帳には地名が見られないのである。

ここでは、判明する地名を地図に示すのみとし、詳細な検討については、後日を期したい。

二月二二日の検注順路

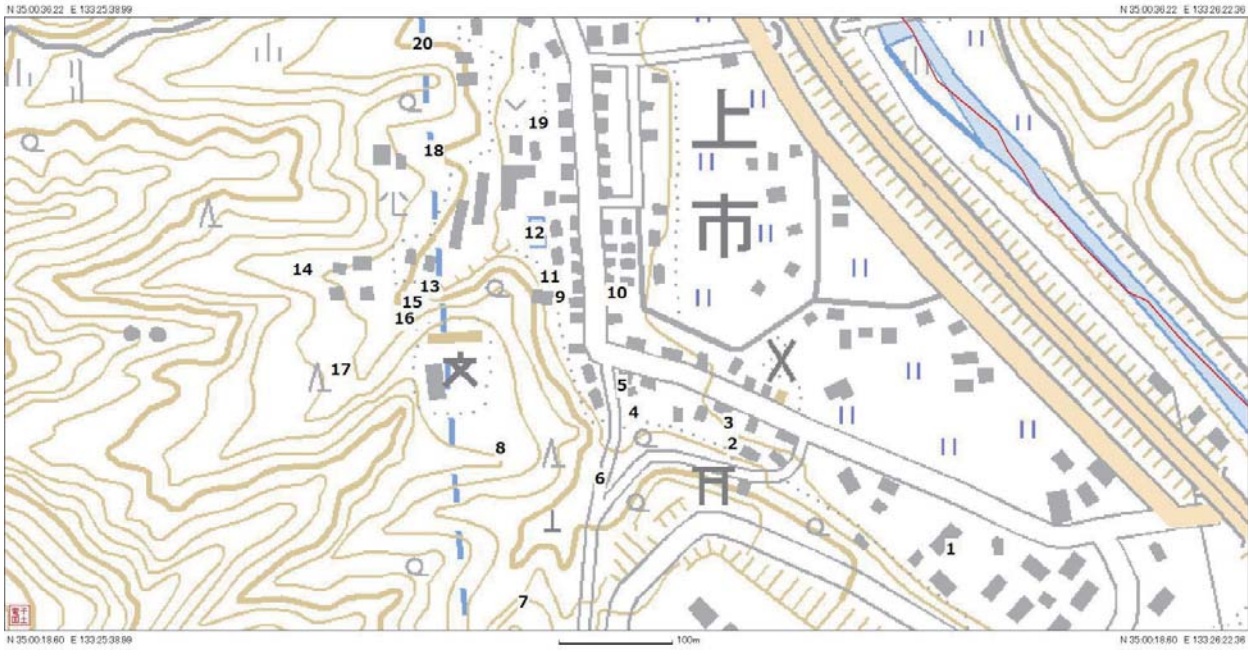
二月二二日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	新諏訪後谷	諏訪谷	
2	新諏訪御前	諏訪谷	
3	新諏訪奥	諏訪谷	
4	池内田平	池ノ内	
5	池内ヌノサコ	池内、布ヶサコ	
6	穴サコ	穴ヶサコ	
7	穴サコ西ノサコ	穴ヶサコ	
8	宮尾辻	予想	郷原八幡へ通じる尾根道の交差点
9	宮北後馬庭スヘ	予想	郷原八幡の位置
10	同社ノナヲサカノ	予想	旧土地台帳地名能坂、記載順
11	家前	予想	記載順
12	家上林下	予想	記載順
13	ナヲサカ	能坂	
14	高栗平	予想	高栗社の場所
15	高栗宮サコ	予想	高栗社の場所
16	鳴田上檀	予想	宗金（鳴田里）との位置関係
17	アマツツミノ下	予想	記載順
18	縄坂	ノウサカ	
19	屋敷内坂根	予想	記載順
20	袋尻	袋尻	

○二月二二日

検注の初日は、上市地域の南端、井村地区で始まった。井村地区の南端は地頭方の南端であり、領家方と境界を接する場所である。

この日の検注は比較的順路が見えやすい。地名の分布は、西方地域と上市地域の堺にある尾根よりやや南側にまで広がっている。耕地としては、ほとんどが山畠であるが、ヌノサコ、穴サコ、高栗宮サコなどには新田が見られる。鎌倉後期に谷戸田の開発が進んだのであろう。



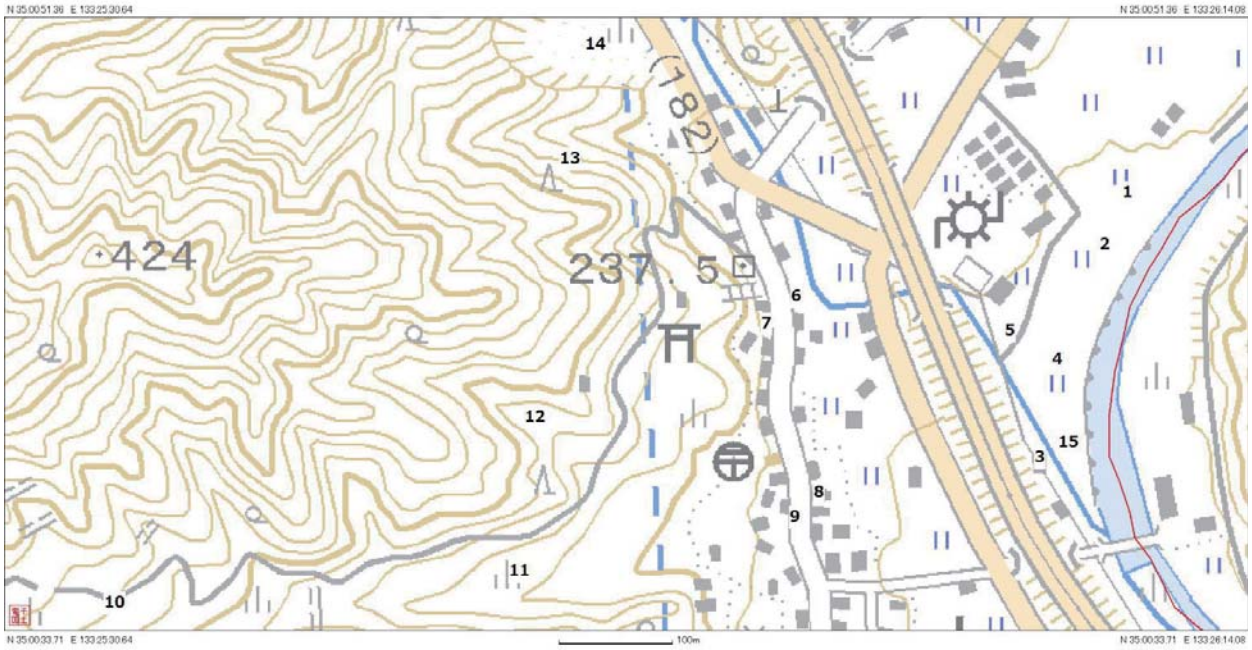
二月二四日の検注順路

二月二四日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	大歳前	太才前	
2	屋敷上平	予想	旧土地台帳古屋敷
3	屋敷上平前	予想	旧土地台帳古屋敷
4	山戸岐後	予想	記載順
5	屋敷内	予想	記載順
6	ヒエハタ谷	予想	記載順
7	ヒエハタ谷奥	予想	記載順
8	ヒヘハタ谷山手上檀	予想	記載順
9	山手	予想	記載順
10	山手家前	予想	記載順
11	家後	予想	記載順
12	山手屋敷内	予想	記載順
13	鈴上谷	予想	記載順
14	寺奥ノサコ	予想	観音寺の位置
15	鈴上谷	予想	記載順
16	家後	予想	記載順
17	鈴上奥	予想	記載順
18	寺前	予想	観音寺の場所
19	中須マトハノ後	予想	旧土地台帳西山上馬場、記載順
20	湯屋サコノ出口	予想	記載順

○二月二四日

二月二四日も、井村地区の南部で検注が行われた。この周辺では、谷戸地名があまり残されておらず、地名比定は検注順路の予想に頼る部分が多くなった。但し、鈴上谷に関しては、観音寺の免田が多く設定されているため、観音寺の場所から地名比定を行った。耕地は山畠・里畠が中心である。鈴上谷にわずかに新田が見える。



二月二五日の検注順路

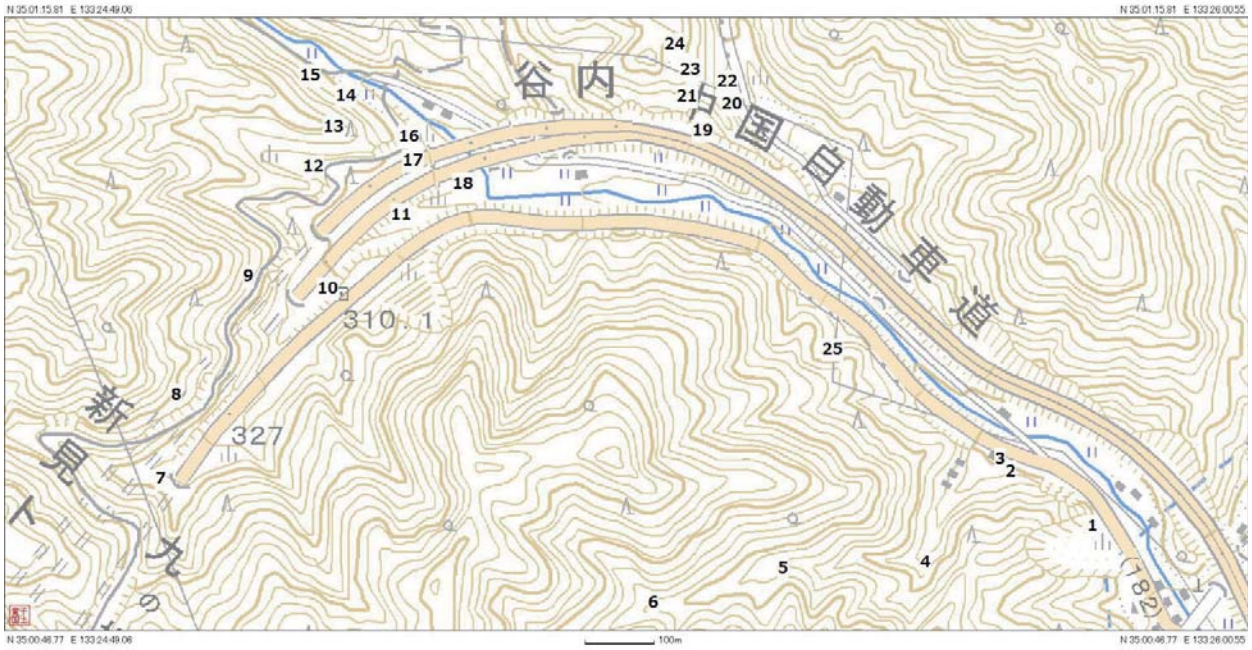
二月二五日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	堂ソハ	予想	記載順
2	中嶋	予想	記載順
3	二日市場溝口	予想	井堰の場所
4	カハラサキ公文後	河原崎	
5	カハラサキ卒塔婆前	河原崎	
6	家前	予想	記載順
7	厳島林下	予想	記載順
8	家前	予想	記載順
9	家ノ上	予想	記載順
10	紀八郎奥谷	予想	記載順
11	湯屋谷	予想	記載順
12	船木ノサコ	予想	記載順
13	柳サコ	予想	記載順
14	山手	予想	記載順
15	谷内河出口	予想	谷内川と高梁川の合流点

○二月二五日

二月二五日は、井村地区の北部から横見にかけて検注が行われた。やはり、谷戸地名の残り方が少ないが、ほとんどの場所が里畠・山畠であることを参考に地名比定を行った。河原崎一帯は里畠であり、自然堤防上の微高地であったことが予想される。また、ここには公文給も設定されている。

湯屋谷にわずかに新田が見られる。



二月二六日の検注順路

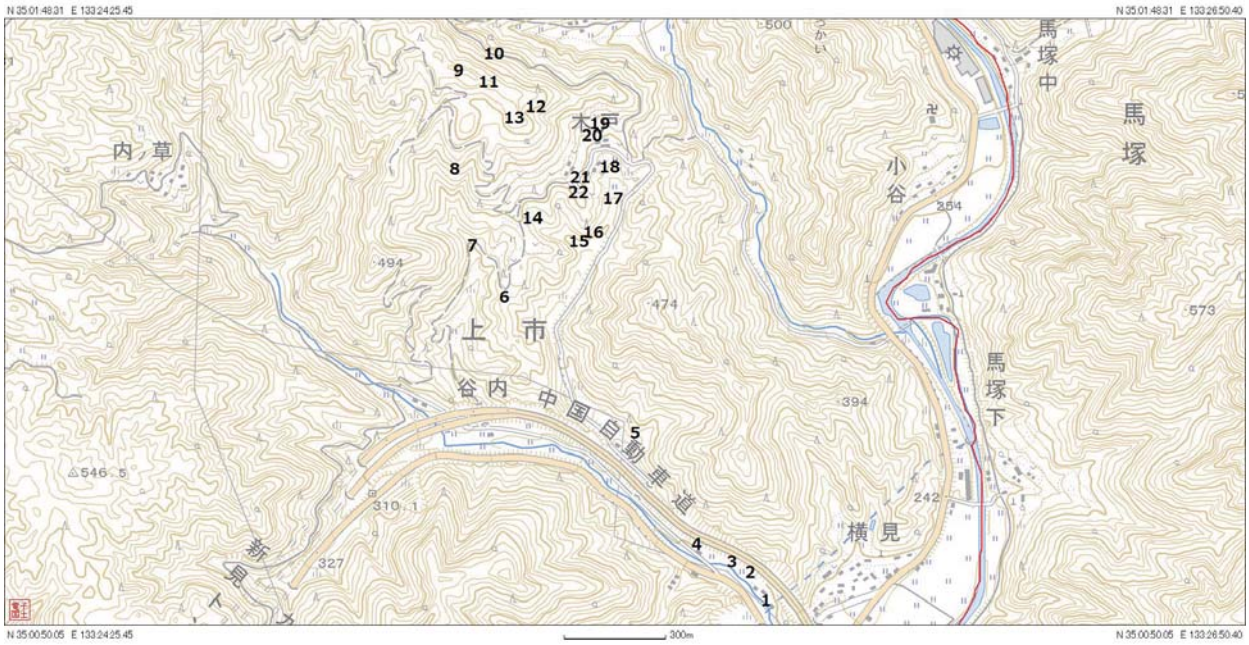
○二月二六日

二月二六日は谷内地区を中心に検注がが行われている。この周辺は検注地名がよく残っており、地名比定が行いやすい。

耕地は圧倒的に山畠中心であり、この周辺の鎌倉後期の農業事情が垣間見えるとともに、各谷戸にはわずかな新田が開かれている。この地区でも谷戸田の開発が少しずつ行われていた。

二月二六日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	屋敷前	予測	記載順
2	ツフネ谷出口屋敷内	粒根	
3	ツフネ谷出口	粒根	
4	ツフネノ奥	粒根奥	
5	塩ノ上	予想	記載順
6	桜ノハタ	予想	記載順
7	クレノ坂	クノサカ	
8	源藤二ハタ	予想	記載順
9	ツイシハタ	露ナシ畑	
10	クレノ坂	クノサカ	
11	クレノ坂の出口	クノサカ	
12	カナヤサコ	カナイサコ	
13	イカリ内	予想	記載順
14	イカリ内北平家前	予想	記載順
15	大谷	大谷	
16	大谷フルヤノ向	予想	記載順
17	竹上	予想	記載順
18	クレノ坂出口	クノサカ	
19	切ハタノ谷	予想	記載順
20	入坂	予想	記載順、旧土地台帳入坂の入口
21	ツヱノ口	予想	記載順
22	入坂	予想	記載順、旧土地台帳入坂の入口
23	ツヱノ口	予想	記載順
24	谷跡林道跡	予想	記載順
25	田平	田平	耕地が山畠のため、旧土地台帳田平の谷内川向かいの山に設定



三月一日の検注順路

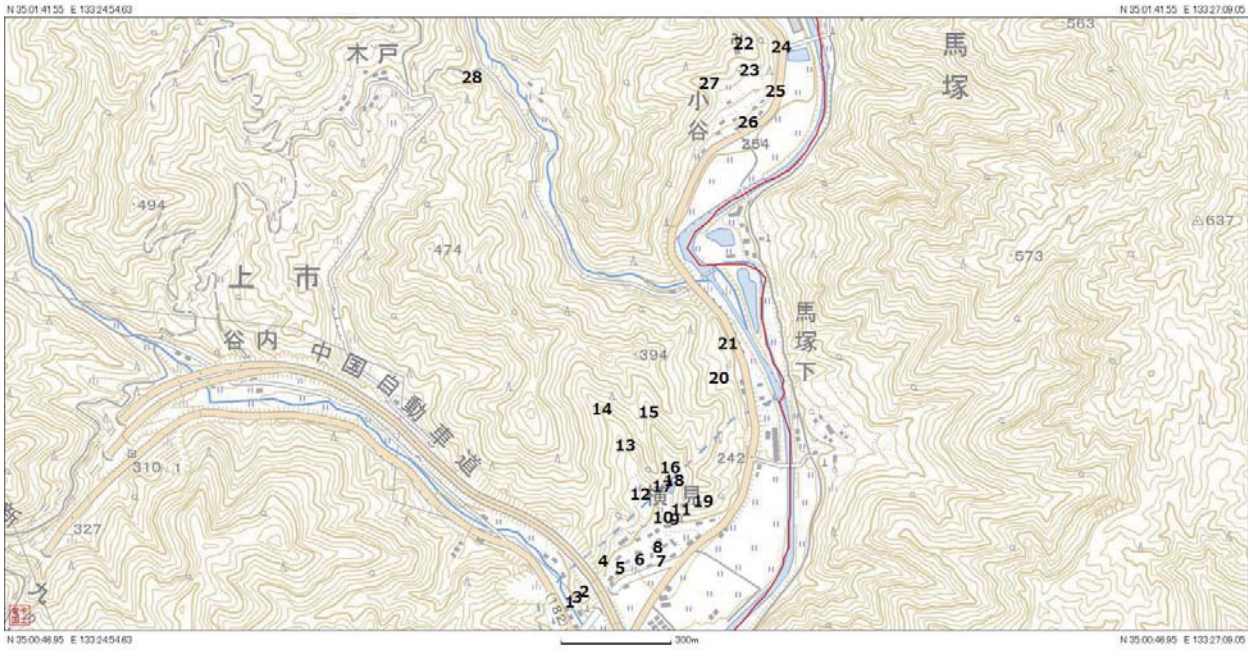
三月一日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	下朝倉	予想	旧土地台帳朝倉
2	コマツノ野	予想	記載順
3	堂垣内	予想	記載順、下谷内に旧土地台帳地名堂ヶ一があるが、記載順を優先した。
4	下朝倉	予想	旧土地台帳地名朝倉から
5	入り坂木戸口ミチコシ	予想	木戸の入口から
6	木戸谷山上向	予想	記載順。山上から。
7	ホコノ尾	鋒仁尾	
8	フタサコ	予想	記載順。
9	出雲田上	出雲代	
10	ナルタキ	鳴瀧	
11	出雲田上	出雲代	
12	木戸上	予想	記載順、木戸集落の上から
13	出雲田ウネコシ	出雲代	
14	入坂	入坂	
15	入坂下	入坂	
16	入坂下柿木畠	入坂	
17	木戸	木戸	
18	家前	予想	木戸集落の前から
19	木戸家上	木戸	
20	木戸家上下	木戸	
21	道上下	予想	記載順
22	山上前	予想	木戸山の神の位置から

○三月一日

三月一日は、谷内地区と木戸地区で検注が行われた。入坂という地名は、現在は一つの谷のみで使われている地名であるが、かつてはもう少し広い範囲を指す地名であったと考えられる。

耕地はやはり山畠が圧倒的に多いが、木戸の集落周辺には、ややまとまった新田と里畠が把握されている。木戸地区がまさに開かれつつある状況なのであろう。



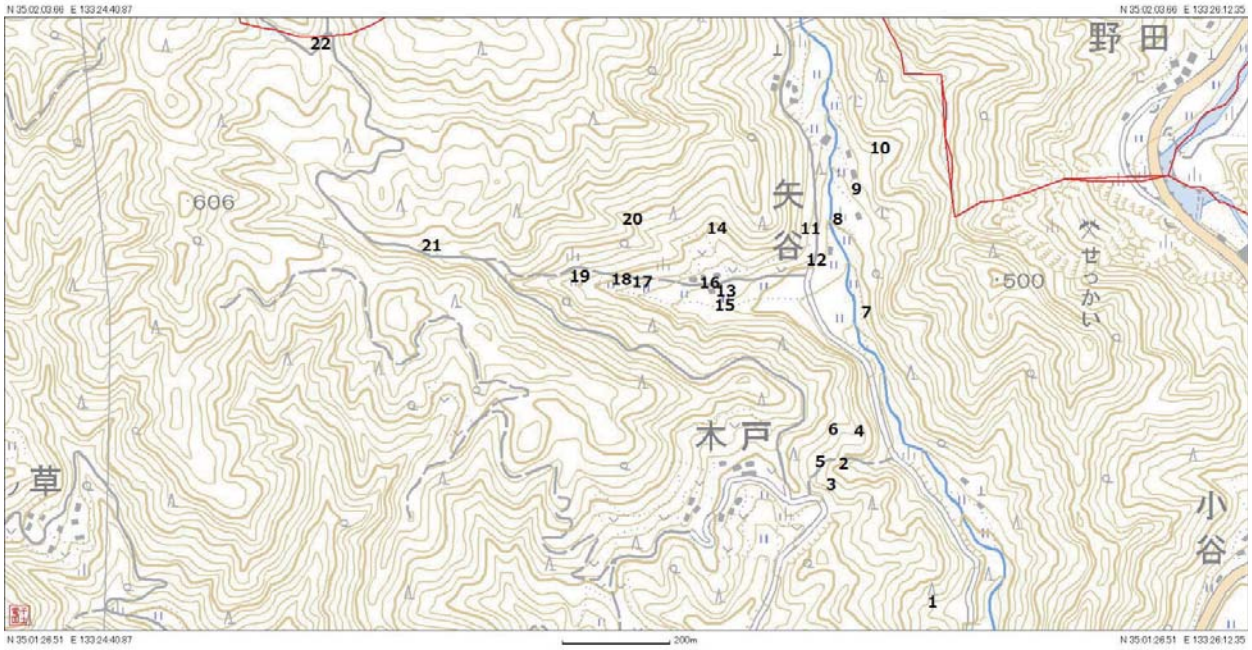
三月二日の検注順路

三月二日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	屋敷内トヤノハナ	予想	地形、旧土地台帳古屋敷
2	家上	予想	記載順
3	家上下	予想	記載順
4	明心上	予想	記載順
5	明神西	予想	記載順
6	横見	横見	記載順
7	横見屋敷内	横見	記載順
8	横見屋敷内後	横見	記載順
9	横見屋敷内横見入道跡	横見	記載順、旧土地台帳古屋敷
10	横畑	予想	記載順
11	横見入道上	横見	記載順
12	弥勒谷	ミロク谷	
13	弥勒谷助次上ハタ	ミロク谷	記載順
14	弥勒谷奥	ミロク谷	
15	弥勒サコノ細サコ	ミロク谷	記載順
16	弥勒サコノ細タニ	ミロク谷	記載順
17	弥勒谷出口	ミロク谷	
18	細サコ	予想	記載順
19	家上	予想	記載順
20	シヤウフサコ	予想	記載順
21	神子十郎ソバ	予想	記載順。
22	湯屋サコ	フロノ谷	
23	湯屋谷西宮倉ノ平	フロノ谷	記載順
24	湯屋谷出口	フロノ谷	記載順
25	トチノ木下	予想	記載順
26	屋敷前	予想	記載順
27	家上	予想	記載順
28	木戸谷	木戸谷	

○三月二日

三月二日には、横見地区と小谷地区を中心に検注が行われた。把握された耕地はすべて里畠・山畠であり、集落内の里畠と、集落後背の山畠が検注されたといえよう。検注地名は詳細な地名が多いと考えられ、現在まで残っている地名は少ない。



三月六日の検注順路

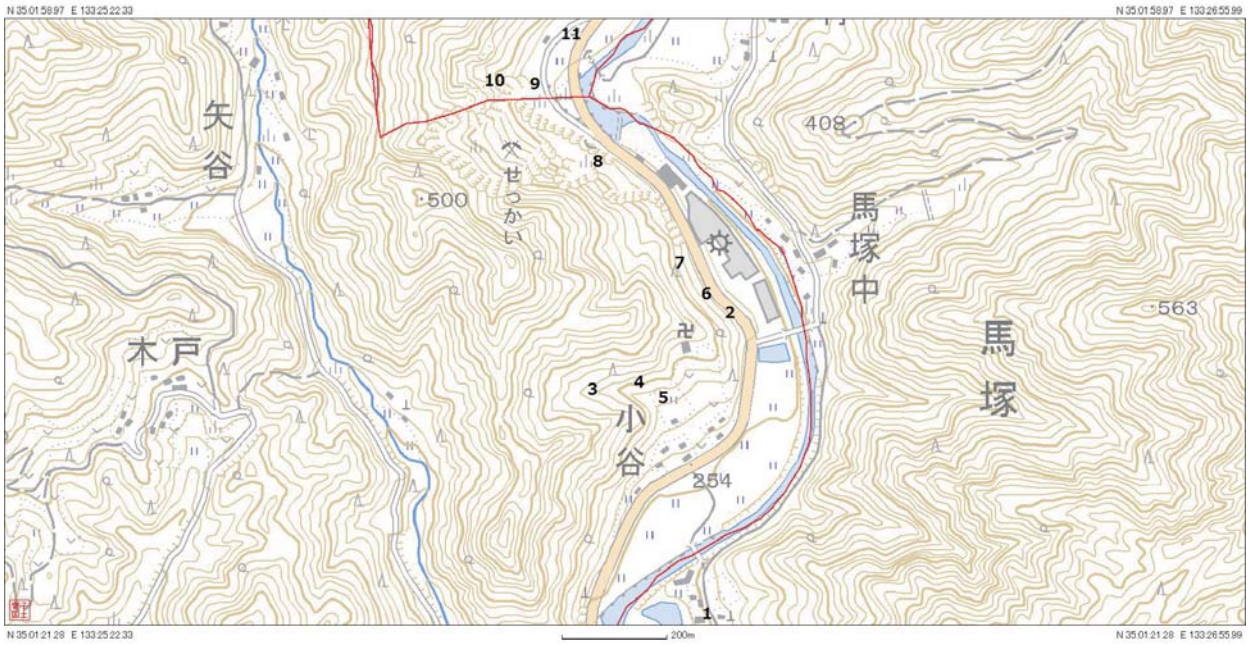
三月六日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	木戸谷細サコ	細サコ	
2	木戸谷	木戸谷	
3	木戸谷平	予想	旧土地台帳木戸谷、記載順
4	岩屋ハタ	予想	記載順
5	木戸谷平	予想	旧土地台帳木戸谷、記載順
6	岩屋平谷上	予想	記載順
7	八谷	予想	集落名矢谷、記載順
8	八谷東サコ	予想	矢谷集落の東の谷であること
9	屋敷内	予想	矢谷集落の東の谷の屋敷であること
10	カキノサコ	掛サコ	
11	馬路畝ノスソ	予想	記載順
12	栗尾足根	予想	記載順
13	ハイトリノ出口	予想	記載順
14	ハイトリノ奥	予想	記載順
15	ナシノ木平	予想	記載順
16	家前	予想	記載順
17	ナルタキノ下	鳴瀧	
18	ナルタキノ平	鳴瀧	
19	八谷西サコ	予想	矢谷集落の西の谷であること
20	家上西サコ	予想	記載順
21	了五郎ハタ	予想	記載順
22	居敷野サイノタハ	石木野	

○三月六日

三月六日には、矢谷地区で検注が行われた。矢谷の景観復原に関しては、竹本豊重氏の研究がある。[13]

把握されているのはほとんどが山畠であり、里畠が集落の周辺に広がっているという状況である。



三月七日の検注順路

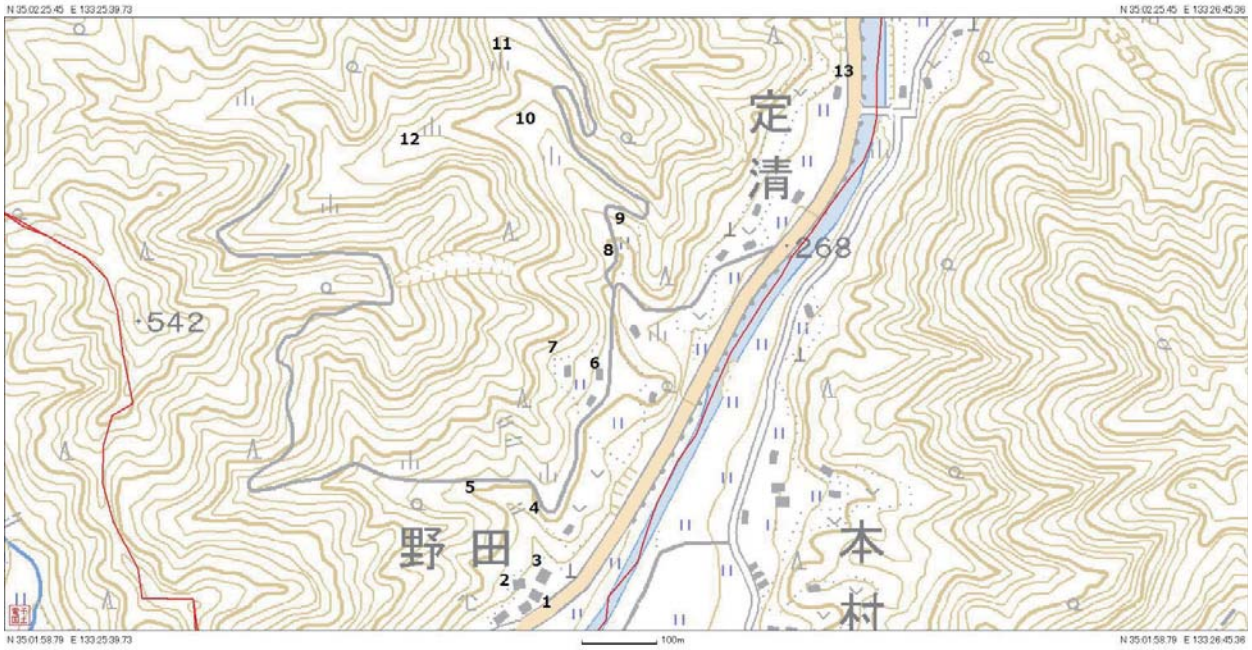
三月七日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	明神淵ノ前河向	予想	記載順
2	八大竜王前	予想	八大竜王の位置
3	奥サコ	奥坂	
4	奥サコ家上	奥坂	
5	屋敷内	予想	現小谷集落の屋敷の位置
6	道上下	予想	記載順
7	ユリハタ	予想	記載順
8	井口	予想	用水路の取り入れ口
9	片樽	片暮	
10	トチハタ	予想	記載順
11	家前	予想	記載順

○三月七日

三月七日には、小谷地区から野田地区にかけて検注が行われた。里畠と山畠が広く把握されている。

先に述べた通り、この後検注は金屋地区で行われている。そのため、この日にこの地域で把握された地名はそれほど多くない。



三月一二日の検注順路

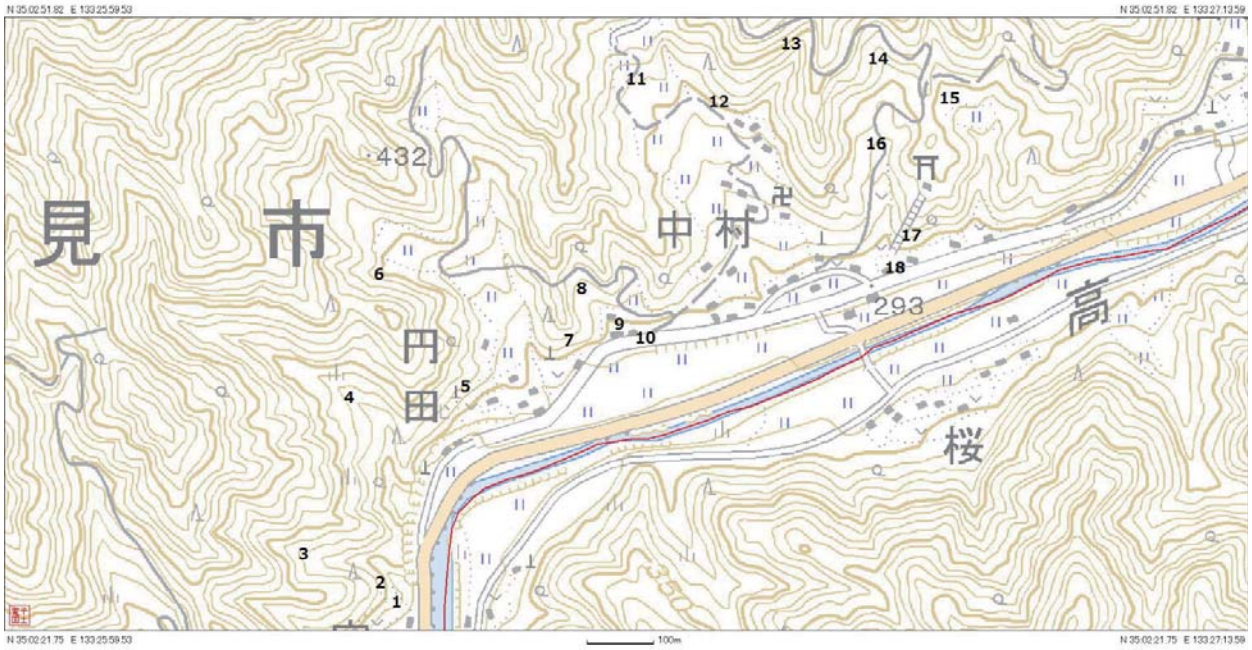
三月一二日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	片樽	片暮	
2	片樽分家上	片暮	
3	ノ田	予測	集落名野田
4	温原サコ	予想	記載順
5	タチヤ谷	予想	記載順
6	屋敷内	予想	記載順
7	屋敷上	予想	記載順
8	軸サコ	軸ノ迫	
9	ミツキ谷	予想	記載順
10	大谷	予想	記載順
11	ヌノ木ハタ	榎畑奥	
12	スタノサコノ桃木谷	予想	記載順
13	イモノヤ	鍛冶屋	

○三月一二日

三月一二日には、野田地区、定清地区で検注が行われた。比較的地名比定はしやすく、谷戸地名も一部残っている。

タチヤ谷で多くの山畠が、スタノサコノ桃木谷で多くの里畠が把握されている。また、高梁川流域にわずかな新田が把握されている。この周辺では、高梁川流域の開発が継続して行われている様子がわかる。



三月一四日の検注順路

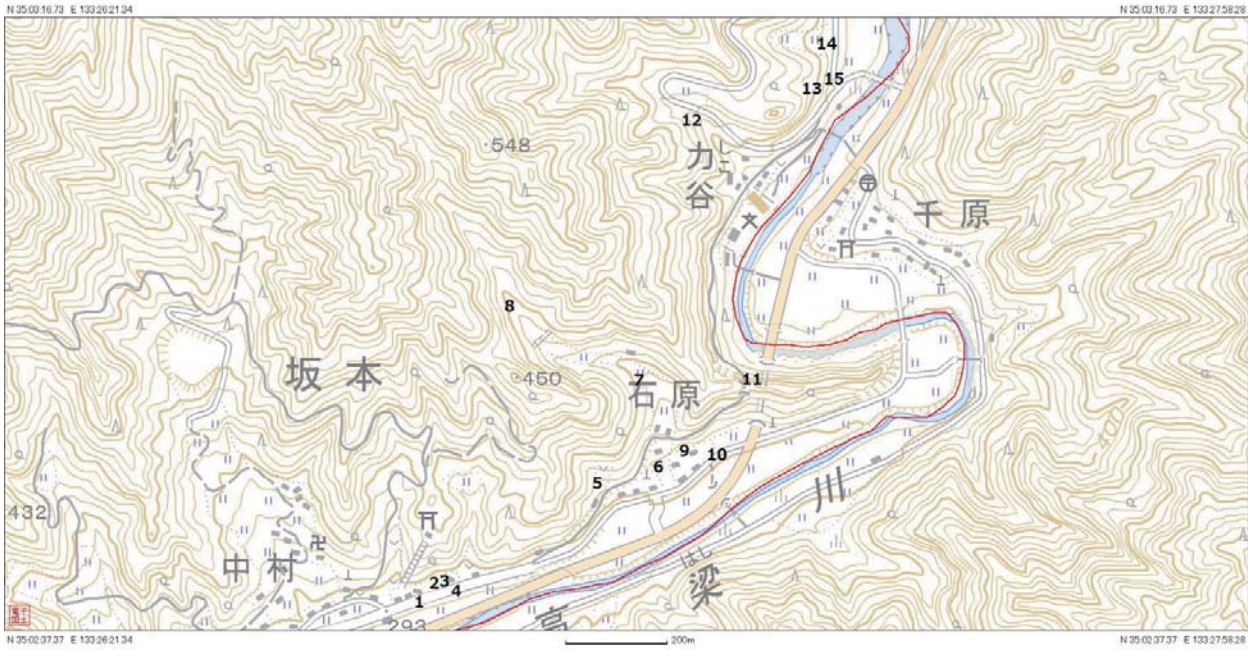
三月一四日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	家北	予想	記載順
2	屋敷上小谷	予想	記載順
3	小沢谷	予想	記載順
4	ハタ谷	畑谷	
5	ヌノ檀	予想	集落名円田
6	塩見谷	予想	記載順
7	屋敷上	予想	記載順
8	後ノサコ	後ヶ垰	
9	屋敷内	予想	記載順
10	屋敷前	予想	記載順
11	不思谷	予想	記載順
12	堂上	予想	記載順
13	寄倉谷	予想	記載順
14	湯屋サコ	予想	記載順
15	堂サコ	予想	記載順
16	湯屋サコ	予想	記載順
17	岡ハタ堂前	予想	記載順
18	屋敷前	予想	記載順

○三月一四日

三月一四日には、円田地区・中村地区で検注が行われた。多くの山畠が存在する不思谷が旧土地台帳地名として検出できないのは残念だが、記載順と地形から地図に記載した場所の可能性が高いと考える。

中村地区には多くの屋敷地名が見えることから、坂本地域では、最も規模の大きな集落だったといえよう。



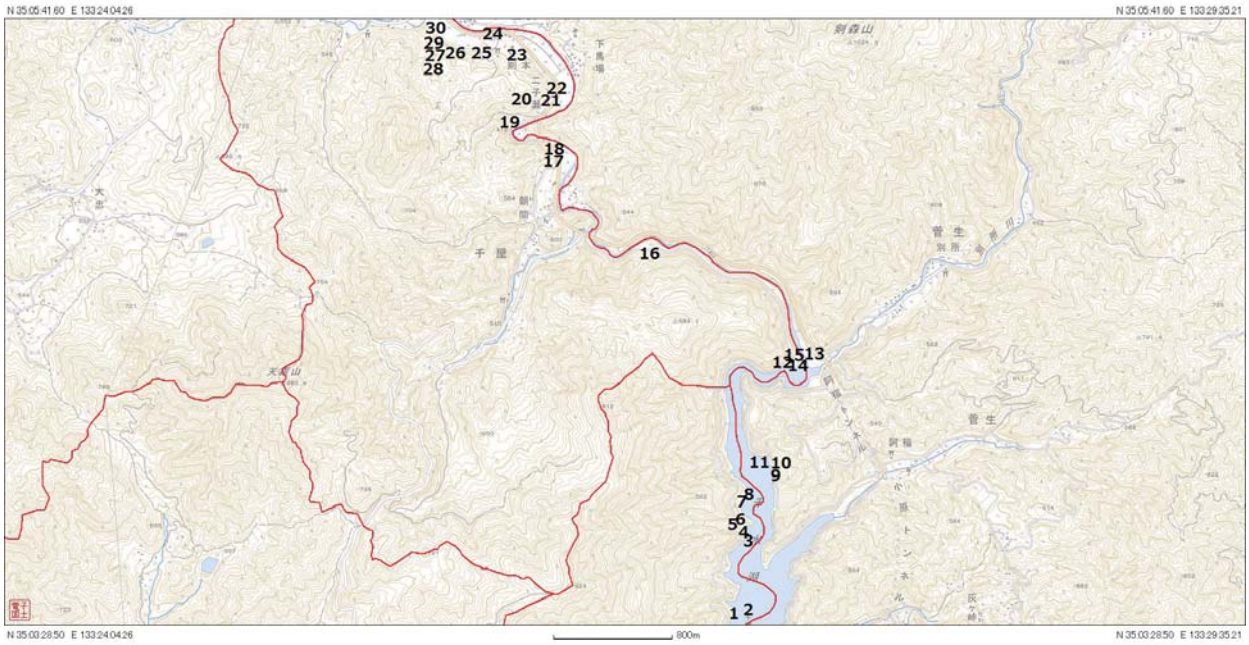
三月一五日の検注順路

三月一五日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	河ハタ	予想	川の近辺で記載順
2	屋敷内	予想	記載順
3	屋敷東	予想	記載順
4	河ハタ	予想	記載順
5	ヨシカ平	吉ヶ埒	
6	家前	予想	記載順
7	トチノ木ハタ	予想	記載順
8	トチ谷	予想	記載順
9	垣内	予想	記載順
10	河ハタ	予想	記載順
11	飯山平	予想	記載順
12	シコ谷	力谷	
13	台原屋敷内	代井原	
14	台原	代井原	
15	屋敷前	予想	記載順

○三月一五日

三月一五日は、中村地区、石原地区、力谷（しこ）地区において検注が行われた。各地区で集落を形成していると思われる周辺には里畠が見られるが、やはり大部分は山畠である。代井原地区は、三町以上の広い山畠が把握されている。



三月一七日の検注順路

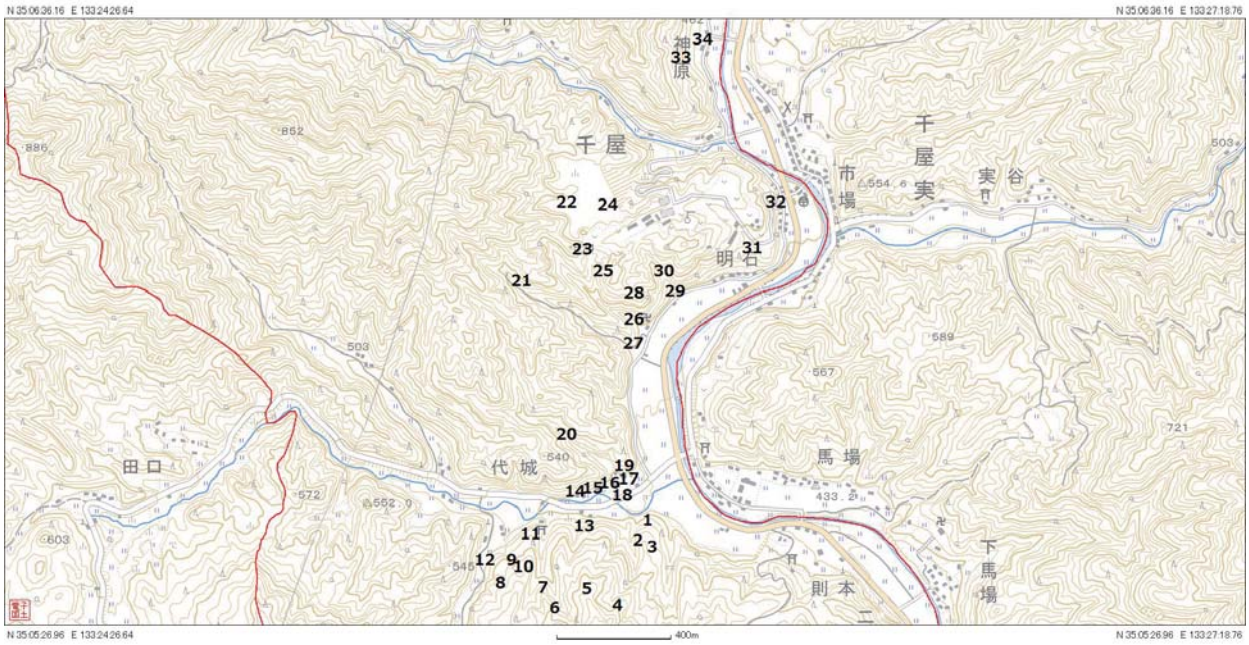
○三月一七日

三月一七日には、現在千屋ダムとなっている坂本地域の北部から、千屋地域の中心にかけて、今までにない距離を移動しながら検注が行われている。現在千屋ダムとなっている地域では、地名が良く対応している。塩津は高梁川の左岸だが、検注地名に見え、新見の荘域であったことがわかる。

おおよそ高梁川に沿って検注が行われているが、現朝間集落と、そこから南西に延びる谷に関する地名は把握されていない。この点に関しては別項で論じているが(14)、地頭方には含まれていなかったのだろう。

三月一七日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	コセカ原	小瀬原	
2	屋敷内	予測	記載順
3	ツヱカ平	予想	記載順
4	フチカタル	予想	記載順
5	チチロキ谷	予想	記載順
6	ウソコヱノタハ	予想	記載順
7	ウソカイチ	ヲサカ市	
8	屋敷内	予想	記載順
9	塩津	塩津	
10	塩津平	予想	集落名塩津
11	屋敷内	予想	記載順
12	シヨウカ平	シヨウヒラ	
13	ウレエシ	売石	
14	屋敷内	予想	記載順
15	シヨウカ平	シヨウヒラ	
16	トチハタ	予想	記載順
17	イカハラ道上	イカバラ	
18	イカハラ道下	イカバラ	
19	コハラチヤホウキ	ホウキ	
20	二御前上山	二子瀬	
21	二御前屋敷前	二子瀬	
22	二御前	二子瀬	
23	クロタ	予想	記載順
24	屋敷前	予想	記載順
25	ハレサワ	予想	記載順
26	大コソ	予想	記載順、3/19 の大コソとは別
27	ウツヲ谷	ウツボ谷	
28	ヨキリノサコ	予想	記載順
29	ウツヲ谷	ウツボ谷	
30	ヲトロ屋敷内	オドロ	



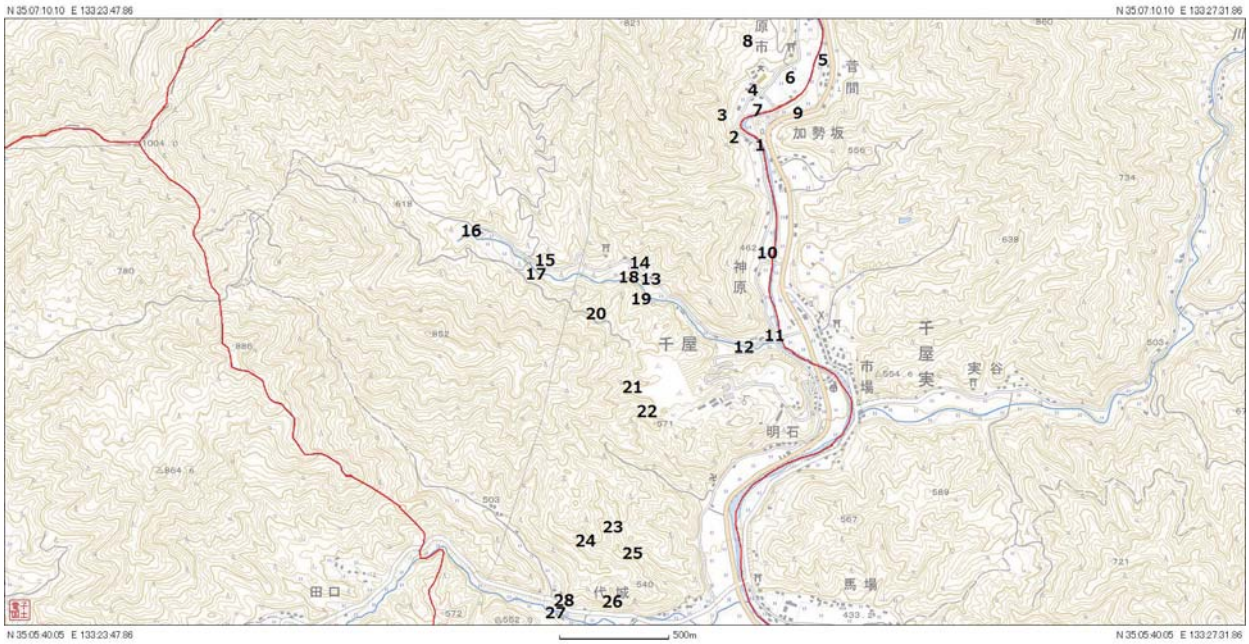
三月一九日の検注順路

三月一九日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	漆ハタ	予想	記載順
2	ヲシノ谷東平	予想	記載順
3	ウルシハタ	予想	記載順
4	ヲシノ谷大平	予想	記載順
5	トヤノ丸北平	予想	記載順
6	大コソ平	予想	記載順、旧土地台帳大コソの近く
7	丸山両谷アイ	丸山	
8	大コソの西平	予想	旧土地台帳大コソの近く
9	ヲヤ山谷	予想	記載順
10	大コソ	大コソ	
11	大コソ北平	大コソ	
12	宮谷	宮ノ谷	
13	ヨココウチノ平	予想	記載順
14	屋敷内	予想	記載順
15	根島屋敷内	集落名根島	
16	根島	集落名根島	
17	根島屋敷内	集落名根島	
18	根島川ハタ	集落名根島	
19	屋敷内	予想	記載順
20	ホソヲ谷	ホウソウ	
21	アチノ谷	フチノ谷	
22	大ハタ谷	予想	旧土地台帳地名大畑の近く
23	石見房谷	予想	記載順
24	大ハタ谷	予想	記載順
25	石見房谷	予想	記載順
26	石見房谷出口	予想	記載順
27	アチノ谷出口	フチノ谷	
28	石見房谷	予測	記載順
29	聖谷出口	予想	記載順
30	聖谷	予想	記載順
31	薬師堂上谷	予想	記載順
32	屋敷上	予想	記載順
33	カン原	神原	
34	屋敷内	予想	記載順

○三月一九日

三月一九日には、代城地区周辺から神原地区にかけて検注が行われている。根島集落の周辺には多くの屋敷地が見られ、ここが千屋地区の中心的な集落であることがわかる。また、根島集落の周辺には、北側・南側にそれぞれ三町を越える山畠が把握されている。



三月二〇日の検注順路

〇三月二〇日

三月二〇日には、荘域の北限である原市地区から、再び南下して代城地区にかけて検注が行われている。

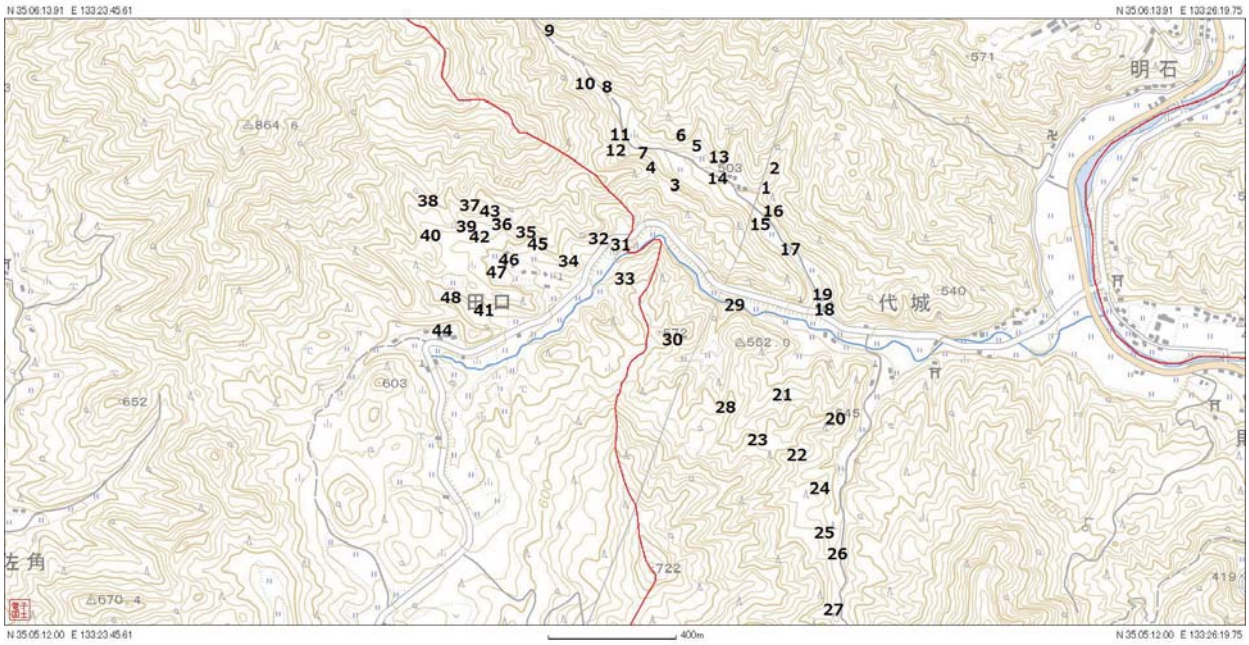
原市地区では水田の検注も行われ、矢杉、神原では、それぞれ一町程度の本田が把握されている。

また、高梁川から北西に延びる明石谷では、八町弱という広い山畠が把握されている。

この周辺では、東隣の村社郷との境界問題が存在していたようで、押領という注記がいくつか見られる。高梁川の流路の変動のせいであろう。

三月二〇日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	マガリフチ	曲リ渕	
2	ウラハセ	予想	記載順
3	ウラハセ北谷	予想	記載順
4	マカリフチ屋敷内	曲リ渕	記載順
5	一盃原	予想	記載順
6	矢杉	安井原	
7	マカリフチ	曲リ淵	
8	ヤスキノ上山	安井原	
9	一盃原	予想	記載順、「則元向にあり」とあるが、この場所とした
10	カン原	神原	
11	赤子出口	明石	
12	中谷	中谷	
13	赤子谷	明石	
14	屋敷内	予想	記載順
15	狩倉	予想	記載順
16	立石	予想	記載順
17	狩倉	予想	記載順
18	屋敷内	予想	記載順
19	堂向谷	堂ノ向	
20	狩倉	予想	記載順
21	中谷頭	予想	旧土地台帳中谷
22	大ハタ谷頭	予想	記載順
23	ホソヲノ谷	ホウソウ	
24	ホソヲノ西サコ	ホウソウ	
25	ホソヲ谷	ホウソウ	
26	イノサコ	予想	記載順
27	屋敷内	予想	記載順
28	屋敷前	予想	記載順



三月二一日の検注順路

○三月二一日

三月二一日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	シミツ谷家上	予想	記載順
2	シミツ谷	予想	記載順
3	大サコ	大垰	
4	ツツラハタ	ツツラ畑	
5	タテハタ	予想	記載順
6	アラサマ	予想	記載順
7	ツツラハタ	ツツラ畑	
8	奥ノサコ	予想	記載順
9	中清ハタ	予想	記載順
10	奥のサコ	予想	記載順
11	屋敷内	予想	記載順
12	カクレイヲ	角立	
13	サカリ	予想	記載順
14	鈴上	鈴上	
15	フルヤ垣内	予想	記載順
16	フルヤ垣内屋敷内	予想	記載順
17	フルヤ垣内	予想	記載順
18	鈴上出口屋敷内	予想	鈴上谷の出口
19	鈴上出口堂後	予想	鈴上谷の出口
20	井ノ頭	予想	記載順
21	湯屋谷	予想	記載順
22	井ノ頭	予想	記載順
23	寄倉	予想	記載順
24	池フタ	予想	記載順

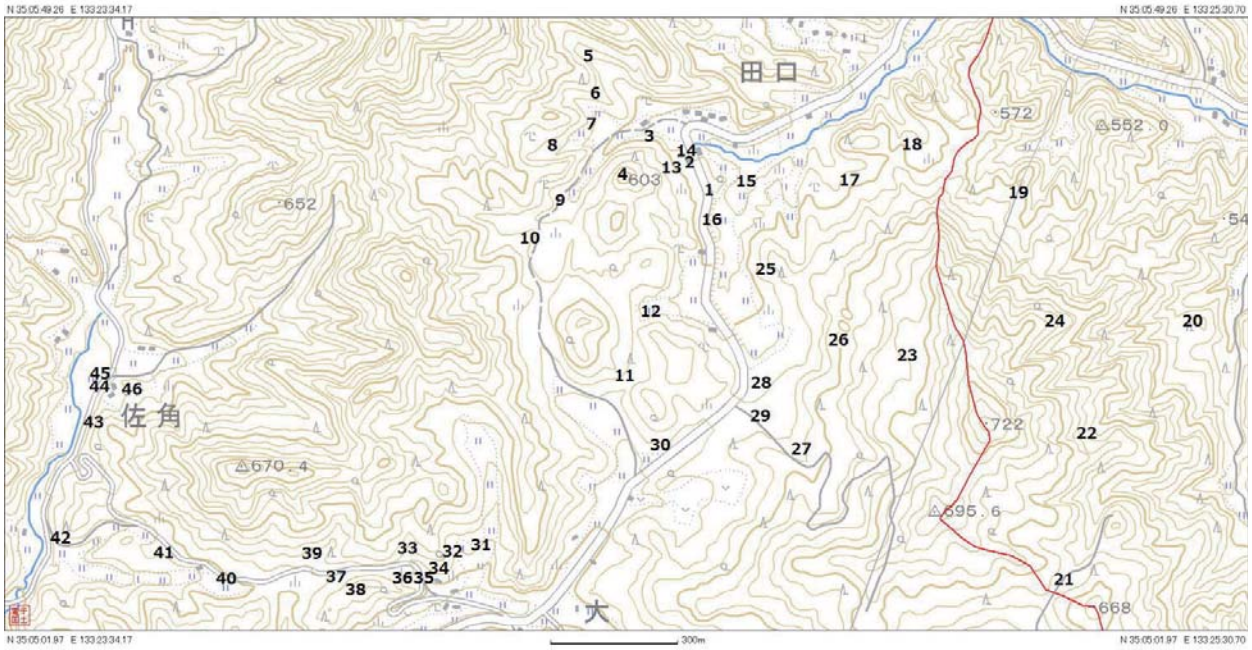
番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
25	日ヨリハタ	日和畑長畑	
26	池フタ	予想	記載順
27	池フタ谷頭	予想	記載順
28	寄倉	予想	記載順
29	根島谷	予想	根島集落の奥の谷
30	寄倉	予想	記載順
31	田口谷	予想	田口集落の谷
32	カクレヲ	予想	記載順
33	寄倉	予想	記載順
34	田口岡	予想	集落名田口
35	石ノサコ	石ヶ垰	
36	ユルキ谷	予想	記載順
37	森檀	森ヶ代	
38	ツホクサ	予想	記載順
39	サルキノ谷	讃岐谷	
40	ツホクサ	予想	記載順
41	後谷	後谷	
42	サルキノ谷	讃岐谷	
43	モリノ台	森ヶ代	
44	カナノ内屋敷内	鉄穴	
45	石ノサコ	石ヶ垰	
46	屋敷内	予想	記載順
47	田口	予想	集落名田口
48	ハタ田ノロ	畑田平	

三月二一日は、鈴上地区と田口地区を中心に検注が行われている。多くの地名が載せられており、特に田口地区では旧土地台帳と対応しているものが多い。

その一方で、田口地区内においては必ずしも検注が一筆書きになっていない印象がある。検注が差出の形態をとったのか、検注使の一行が二手に分かれたのか、定かではないが、一つの特徴といえよう。

把握されているのは大半が山畠であるが、鈴上地区においては、六反ほどの本田が把握されている。

寄倉や池フタという地名に関しては、かなり広い範囲を指す地名と考えられる。



三月二二日の検注順路

○三月二二日

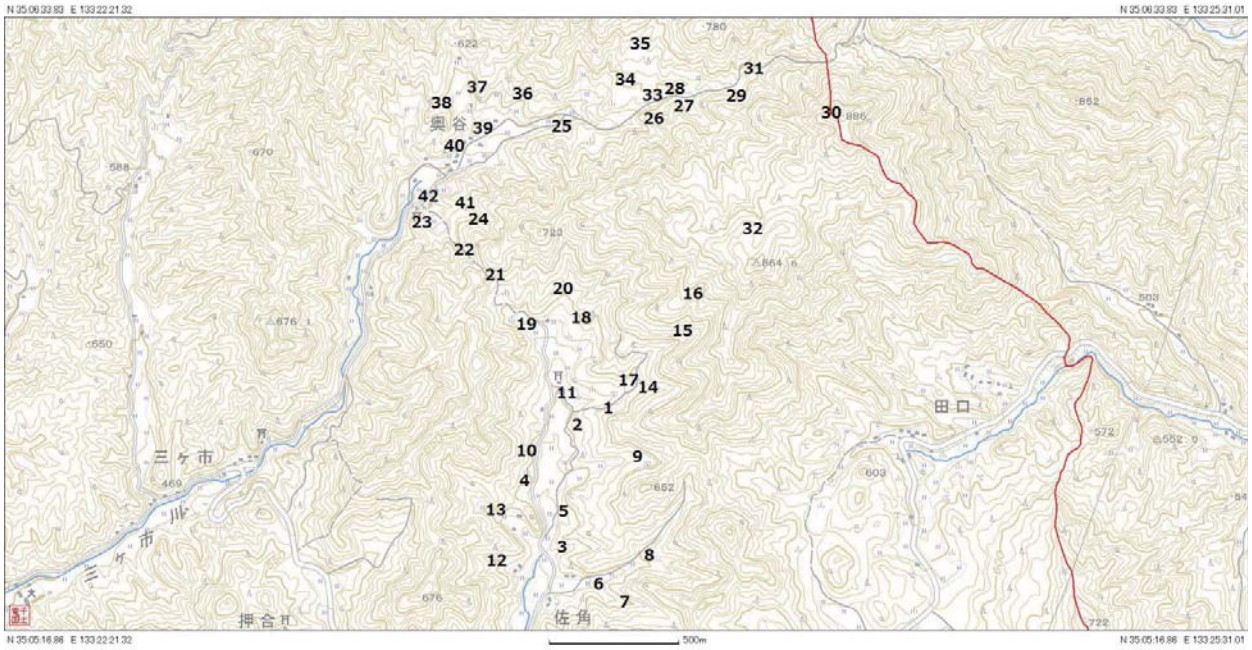
三月二二日には、田口地区から大忠、佐津見地区にかけて検注が行われている。二一日と同様に田口周辺は、必ずしも地名配列が一筆書きになっていない印象があり、二二日の地名の中にも、一部千屋地域に比定できるものが含まれている。

把握されているのはわずかな里畠と多くの山畠である。

また、この日の検注した領域は、釜地域における地頭方の南限となっており、大忠周辺が領家方、地頭方の境界であったことがわかる。

三月二二日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	後タハ西田口	予想	記載順
2	屋敷内	予想	記載順
3	堂後	堂ノ後	
4	宮後	予想	記載順
5	堂奥	予想	記載順
6	長坂	予想	記載順
7	台	田井	
8	ヲキノサコ	予想	記載順
9	屋敷内	予想	記載順
10	タイ谷	田井	
11	サウ原	惣原	
12	カタマサコ	予想	記載順
13	西田口	集落名西田口	
14	屋敷内	予想	記載順
15	ヲモ田ノ平	予想	記載順
16	湯屋谷	予想	記載順
17	キホサコ	予想	記載順
18	中ノ谷	予想	記載順
19	寄倉	予想	記載順
20	池フタ	予想	記載順
21	ミサ坂境	予想	記載順
22	池フタ	予想	記載順
23	サイノ原	予想	記載順
24	池フタ	予想	記載順
25	湯屋谷	予想	記載順
26	サイノ原	予想	記載順
27	水内サコ	予想	記載順
28	サイノ原西境キハ	予想	記載順
29	水内サコ	予想	記載順
30	サウ原	惣原	
31	日ヨリノ奥	日和	
32	同西ノ境のキハ	予想	記載順
33	大歳谷	予想	記載順
34	中カイチ	予想	記載順
35	屋敷内	予想	記載順
36	ナカ田	予想	記載順
37	大タ田	集落名大忠	
38	向畠	予想	記載順
39	屋敷上	予想	記載順
40	ヨコロソトハノ下	横路	
41	ヨコロ	横路	
42	アヒウネノハナ	予想	記載順
43	佐津見	集落名佐津見	
44	屋敷内	予想	記載順
45	屋敷前	予想	記載順
46	屋敷上	予想	記載順



三月二三日の検注順路

三月二三日の検注地名

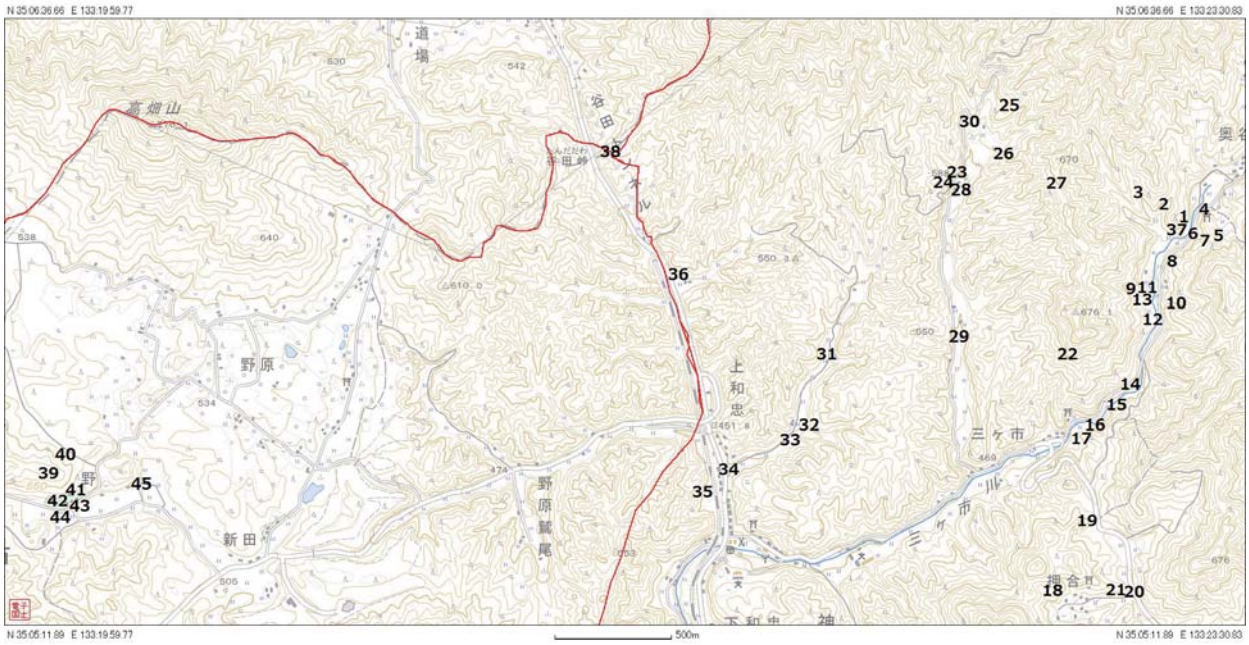
番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	佐津見山谷	予想	記載順
2	屋敷内	予想	記載順
3	林サコ	林ヶ迫	
4	横畑	予想	旧土地台帳横畑の近く
5	シミツノサコ屋敷内	清水ヶ市	
6	弥二郎サコの出口	弥三郎	
7	弥二郎サコの奥	弥三郎	
8	タイ谷	田井谷	
9	ヨシノ谷	吉ヶ谷	
10	横畑	横畑	
11	明神前屋敷内	予想	佐津見明神の場所
12	スワウカサコ	予想	
13	押領使垣内	予想	耕地面積
14	一木谷	予想	
15	ツエカサコ	予想	
16	ツホクサ	予想	
17	一木	予想	
18	黒石	クレイシ	
19	シノカタハ	予想	旧土地台帳篠峠の近く
20	黒石	クレイシ	
21	シノカタハ	篠峠	

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
22	奥谷シノカタハ	篠峠	
23	奥谷大明神上	予想	奥谷明神の場所
24	シノカタハ	予想	旧土地台帳篠峠の近く
25	奥ノ谷フルヤカイチ	予想	記載順
26	ナハタケ畝	予想	記載順
27	シタカタレ	予想	記載順
28	大原	大原	
29	森ノ寄倉	予想	記載順
30	同峰	予想	記載順
31	大原	予想	記載順
32	ツホクサの峰	予想	記載順
33	大原	大原	
34	アラナ谷	予想	記載順
35	アラナ谷奥	予想	記載順
36	ナカサコ	長迫	
37	スキ谷	枚谷	
38	スキ谷ノ西平	枚谷	
39	スキ谷出口	枚谷	
40	屋敷内	予想	記載順
41	シノカタハ	予想	旧土地台帳篠峠の近く
42	屋敷内	予想	記載順

○三月二三日

三月二三日は、佐津見地区や奥谷地区で検注が行われている。佐津見・奥谷ともに、釜地域に入ってからの傾向、すなわち地名配列が一筆書きにならない傾向が強く、釜地域の集落周辺の検注においては、何か特別な方法が採られたと考えざるを得ない。一筆書きの検注順路を前提として地名比定を進めている本稿の手法においては、最も地名比定が難しい地域である。

佐津見も奥谷も屋敷地の周辺には里畠が見られるが、ほとんどは山畠である。



三月二四日の検注順路

○三月二四日

三月二四日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	奥谷大明神向	予想	奥谷明神との位置関係
2	小三郎谷	予想	記載順
3	ワナカ谷	ワナガ谷	
4	大明神前	予想	奥谷明神との位置関係
5	奥谷大明神後	予想	奥谷明神との関係
6	奥谷屋敷内	予想	記載順
7	屋敷上	予想	記載順
8	イモノ平	予想	記載順
9	ウツノカケ	予想	旧土地台帳地名ウツカカケの近く
10	カウタカサコ	幸太埒	
11	ウツノカケノ出口	ウツカカケ	
12	魚切	魚切り	
13	ウツノカケ	ウツカカケ	
14	梅木サコ	梅ノ木埒	
15	岡カイチ	予想	記載順
16	ワタ畠	予想	記載順
17	ヒノサコ	飛ノ埒	
18	ヲシアヒ	押合	
19	ヲシアヒタハ	押合	地形
20	ヲシアヒ道下ノコホチ	押合	
21	ヲシアヒ歳ノ登立	押合	
22	梅木サコノ上タカツシ	高フジ	
23	屋敷内歳前	予想	記載順
24	屋敷内	予想	記載順
25	サカイキハ	予想	記載順
26	竹ノ谷	竹ノ谷	
27	タカフシ	予想	旧土地台帳高フジと同じ尾根
28	竹ノ谷	竹ノ谷	
29	松原	松原	
30	竹谷奥大原	予想	竹ノ谷の奥
31	井ノヒラ	井ノ平	
32	屋敷前	予想	記載順
33	井ノヒレ	井ノ平	
34	井ノヒレノ出口	井ノ平	
35	井ノヒレの西谷	井ノ平	
36	ツカ原	塚ノ谷	
37	奥谷ニアリ	予想	後から付け足しで記載か
38	ホウシカタハ東ノツラ伯耆境	予想	記載順
39	野	集落名野	
40	一木	予想	記載順
41	古屋敷内加定	予想	記載順
42	進士屋敷内	予想	記載順
43	堂前	予想	記載順
44	屋敷内	予想	記載順
45	妙見西	予想	妙見社との位置関係

三月二四日には、奥谷地区から二ヶ市地区、上和忠地区、そして高瀬地域の野地区にかけて、広い範囲にわたって検注が行われた。

奥谷、竹ノ谷、井ノヒレ、ツカ原といった場所には本田・新田が見られるが、里畠は存在せず、大半は山畠である。井ノヒレの周辺に領家方との論所が見られ、また高瀬の野地区に至るまでの間である野原鷲尾・新田・野原地区に関する地名も見当たらない。これらの場所には領家方が存在したのであろう。

三月二五日の検注順路

三月二五日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	野	集落名野	
2	屋敷内	予想	現野集落の位置
3	屋敷	予想	現野集落の位置
4	松フラノタハ	松フロ	
5	ハシキカサコ	予想	記載順
6	サカイノタハ	予想	記載順
7	ヒシハラノ境タハ	予想	集落名飛時原への道
8	大ムカヒ	予想	
9	一木	予想	
10	後谷	予想	
11	屋敷跡	予想	現野集落の位置
12	屋敷内上	予想	現野集落の位置
13	屋敷内	予想	現野集落の位置

○三月二五日

三月二五日は、野地区周辺で検注が行われている。狭い地域で検注が行われており、高瀬地域における地頭方の北東限であるこの地域では、慎重に検注が進められたのかもしれない。把握されているのはすべて山畠である。この周辺で二五町程度の広い耕地が把握されている。

三月二六日の検注順路

三月二六日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	野	集落名野	
2	野ヨリ南	予想	集落名野
3	土橋	予想	記載順
4	大境ヨリ西平	予想	
5	土橋	予想	
6	懸札	予想	記載順
7	放正畝	予想	記載順
8	懸札	予想	記載順
9	放正畝	予想	記載順
10	野タハ	予想	旧土地台帳地名野タワの近く
11	ウチコヘ	予想	記載順
12	シノノタハ	篠ノ内	
13	川ムカヒ	予想	記載順
14	屋敷内	予想	記載順
15	本郷	予想	記載順
16	屋敷内	予想	記載順
17	野タハ	野タワ	
18	本郷	予想	記載順
19	船谷口	予想	記載順
20	本郷	予想	記載順
21	屋敷内	予想	記載順
22	屋敷	予想	記載順
23	カウ原	郷原	
24	屋敷内	予想	記載順
25	江原	郷原	

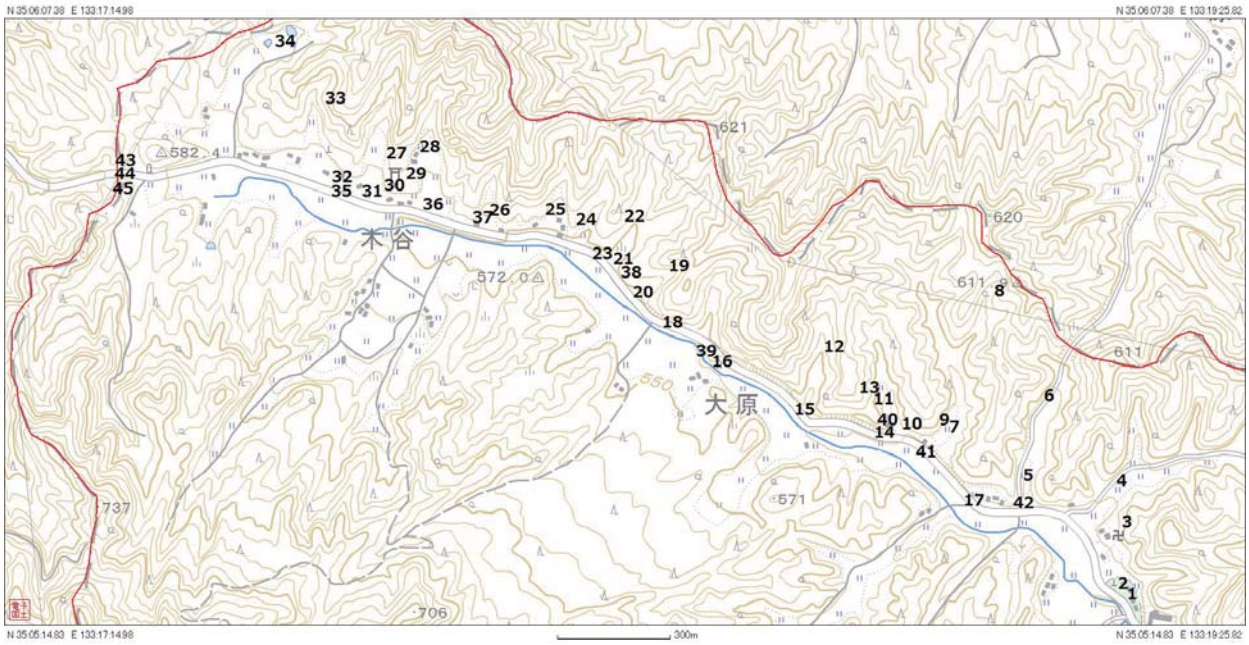
○三月二六日

三月二六日は、高瀬地域の野地区から梅田地区にかけて、検注が行われた。

野地区では水田の検注も行われ、本・新田合わせて三町余が把握されている。但し、領家方の百姓との間で、「論田」となっている、という注記がある。

現梅田の集落は、地名比定から本郷と呼ばれていたことが分かる。多くの屋敷地名が把握されており、名前の通り高瀬地域の中心的な集落だったのだろう。

野地区と梅田地区を隔てる尾根では、二〇町を越える多くの山畠が把握されており、山畠の開発が盛んに行われたことが分かる。



三月二七日の検注順路

三月二七日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	石堂	石堂	
2	屋敷内	予想	記載順
3	松フロノ出口	松フロ	
4	松フロ	松フロ	
5	ヒチハラノ出口	ヒジ原口	
6	ヒハラノ奥	予想	記載順
7	井ノ奥	井ノオク	
8	アナカタハ	予想	記載順
9	井ノ奥	井ノオク	
10	ヨコロ道ヨリ下	予想	記載順
11	ツタノサコ	ツタヶ埒	
12	八幡サコ	予想	記載順
13	ツタノサコ	ツタヶ埒	
14	ツタノサコノ出口	ツタヶ埒	
15	屋敷内	予想	記載順
16	八幡前出口	八幡	
17	中原	中原	
18	大原向	予想	旧土地台帳大原
19	ハシノ木サコ	予想	記載順
20	ハシノ木サコの出口	予想	記載順
21	コレハノツカノ前	予想	記載順
22	コレハ谷	予想	記載順
23	コレハノ坂本	予想	記載順
24	ホウノ木谷	ホウノ木谷	
25	卒塔婆サコ	予想	記載順
26	木谷	木谷	
27	森上	予想	記載順
28	古屋サコ	古屋	
29	宮東	予想	木谷神社の位置
30	屋敷内	予想	記載順
31	木谷	木谷	
32	屋敷内	予想	記載順
33	サハタ	予想	記載順
34	アコメ谷	アコメ	
35	家前	予想	記載順
36	古屋サコ	古屋	
37	木谷	木谷	
38	木谷ハテ	予想	記載順
39	大原	大原	
40	ツタノサコ	ツタヶ埒	
41	井ノ奥出口	井ノ奥	
42	ヒチハラノ谷ノ出口	ヒジ原口	
43	道ヨリ上堺田	予想	
44	大坂タハ	大坂峠	
45	ナカシマノ垣内	予想	記載順

○三月二七日

三月二七日には、高瀬地域の高瀬川北岸の広い範囲において、検注が行われた。ここは荘域の北西限であり、ようやく検注が荘域の端に到達した。

木谷周辺では水田も把握されているが、耕地の大半は山畠である。

○三月二八日

三月二八日には、高瀬地域の木谷地区から、釜地域の釜地区まで、本検注において最も広範囲な作業が行われている。検注使は、高瀬川の北岸の水田を検注した後、柳原地区に入って、そのまま谷奥を抜けて釜地域の釜地区の西川右岸に入ったと考えられる。

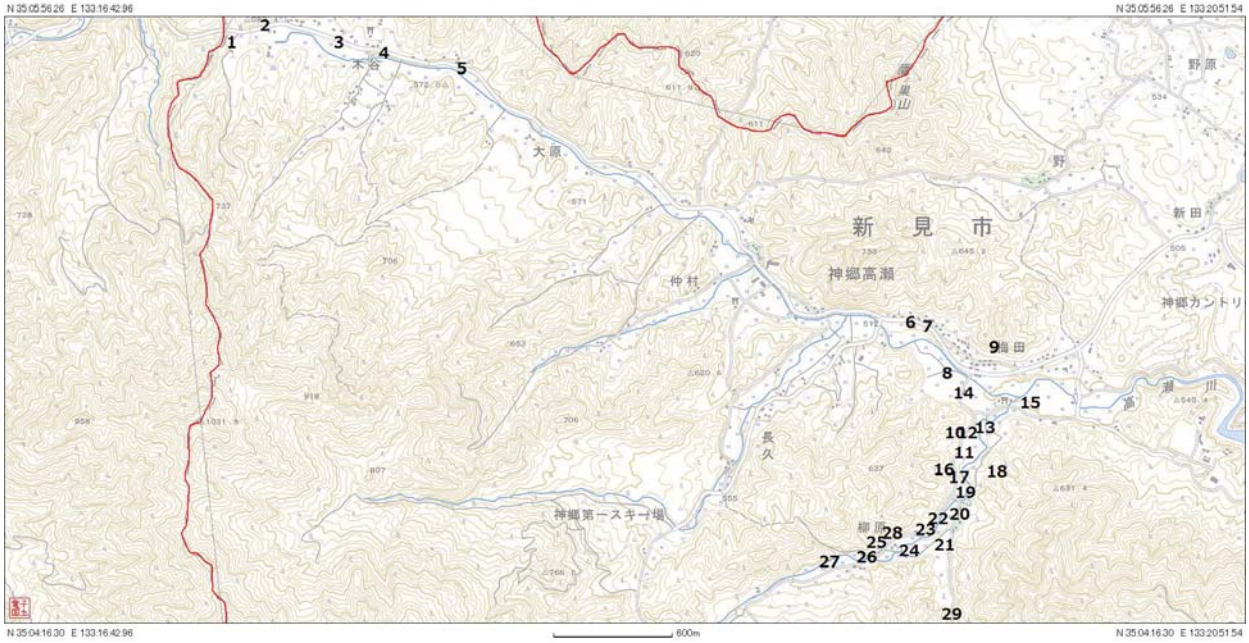
検注が折り返し点を過ぎ、最初に述べた通りこれまで畑中心で行われていたものが、水田中心へと切り替えられている。

検注帳は、現亀尾神社から柳原地区にかけて、亀尾という地名で把握しており、名寄帳には鏡という地名も載っている。鏡は旧土地台帳にも見え、この辺一帯が地頭方であったことがわかる。

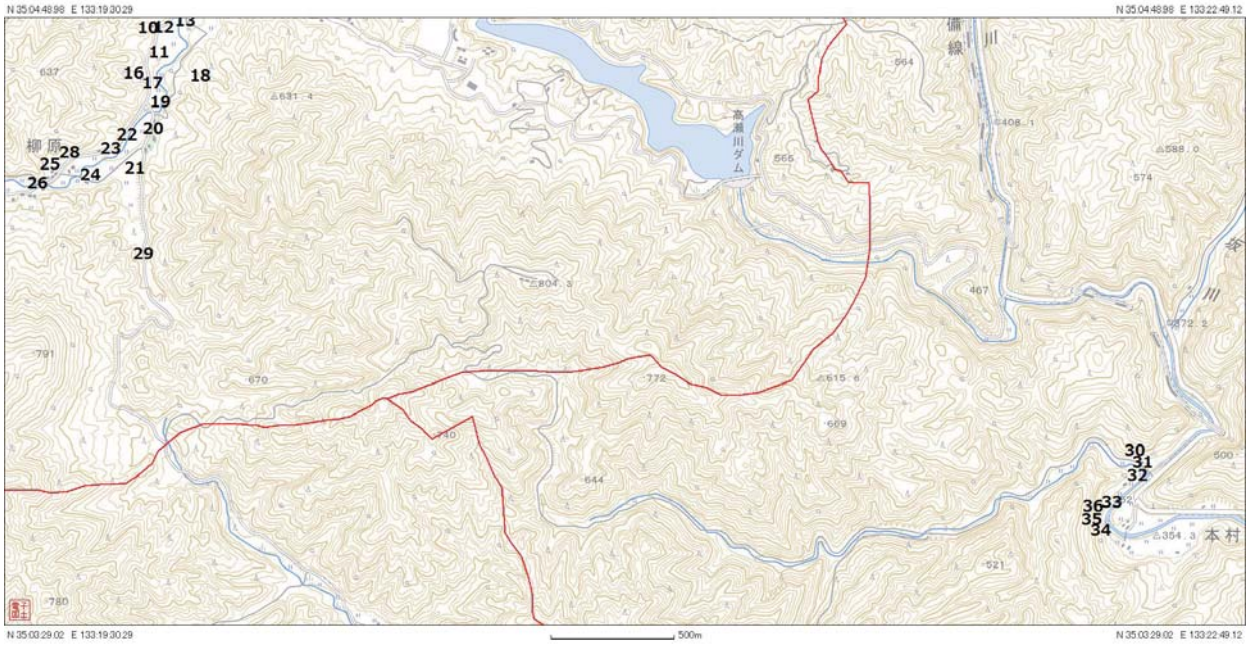
総じて論所が多いことから、長久地区・高瀬川南岸を中心とした領家方と、境界争いが各地で起きていたのであろう。

三月二八日の検注地名

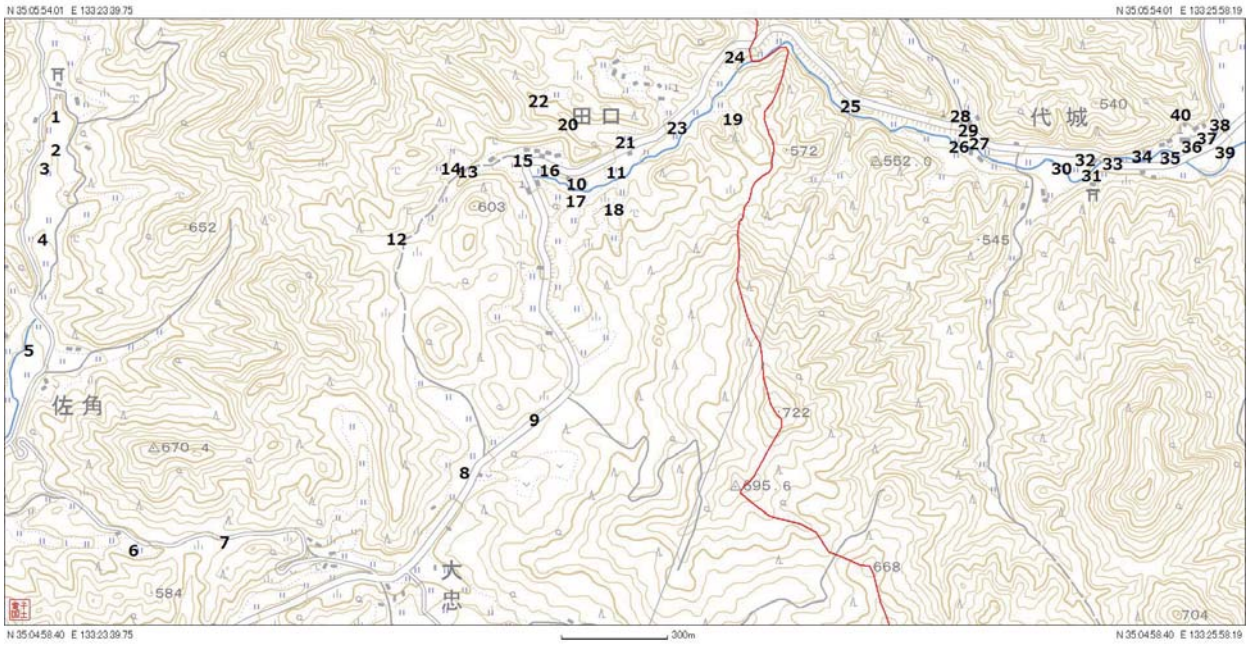
番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	カナイ淵	金井谷	
2	細田	予想	記載順
3	新屋田	予想	記載順
4	ツナ田	予想	記載順
5	ホウキノ前	ホウノ木谷	
6	垣内	予想	記載順
7	屋敷前	予想	記載順
8	古川跡	予想	記載順
9	本郷	予想	記載順
10	ササ井	ササヤ	
11	ササ井原	ササヤ	
12	家前	予想	記載順
13	ササ井原	ササヤ	
14	梅田	予想	記載順、集落名梅田の近く
15	亀尾	予想	亀尾神社近く
16	亀尾丹大夫屋敷前	予想	正中２年名寄帳にに鏡丹大夫と見え、旧土地台帳地名鏡の近く
17	亀尾家前	予想	記載順
18	亀尾向	予想	記載順
19	河ヨリ向森下	予想	記載順
20	江大夫垣内	予想	記載順
21	江大夫垣内井口	予想	記載順
22	与三垣内	予想	記載順
23	与三垣内山サキ	予想	記載順
24	カウナウシ	高内所	
25	屋敷	予想	記載順
26	河成	予想	記載順
27	ヲノ	予想	記載順
28	大道下家上	予想	記載順
29	鷲谷	予想	記載順
30	堂村スロ谷免	スロ谷	
31	屋敷内	予想	記載順
32	ヒロチ	予想	記載順
33	コフチ	予想	記載順
34	コヲソコヘ	予想	旧土地台帳地名コヲソ原近く
35	サカマキ	予想	記載順
36	ヒロ岩	予想	記載順



三月二八日の検注順路 1



三月二八日の検注順路 2



四月一日の検注順路

四月一日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	佐津見柳坪	予想	記載順
2	屋敷ヨリ西	予想	記載順
3	堂前	堂ノナル	
4	佐津見	予想	記載順
5	佐津見家前	予想	記載順
6	日寄ノヨコロ	ヨコロ	
7	大タタ	集落名大忠	記載順
8	歳原	惣原	
9	歳原コハマ谷	高濱	
10	湯屋谷出口西田口	予想	記載順
11	西田口	集落名西田口	
12	サツミノタハ	予想	佐津見へ通じる峠
13	タイ谷	田井谷	
14	ヲキノサコ	予想	記載順
15	屋敷前	予想	記載順
16	屋敷前クタリ	予想	記載順
17	ヲモ田	予想	記載順
18	サコ田	迫田ノ峠	
19	寄倉ノサコ	予想	記載順
20	ハタ田	畑田平	
21	ハタ田出口	畑田平	
22	ハタ田尻	畑田平	
23	ヲモカイケ	予想	記載順
24	田口谷	集落名田口	
25	根島谷	予想	集落名根島の谷
26	屋敷下	予想	記載順
27	屋敷家前	予想	記載順
28	鈴上出口堂前	予想	鈴上谷の出口
29	鈴上出口	予想	鈴上谷の出口
30	森前	予想	記載順
31	森下クタリ	予想	記載順
32	根島谷	集落名根島	
33	森下	予想	記載順
34	家前	予想	記載順
35	家向	予想	記載順
36	家前	予想	記載順
37	家前クタリ	予想	記載順
38	成沢家前	予想	記載順
39	河ハタ	予想	記載順
40	家上	予想	記載順

○四月一日

四月一日は、釜地域の佐津見から千屋地域の代城地区にかけて検注が行われた。各地で水田が把握されているが、広くても一つの地名につき五反程度であり、大半は一反に満たない。小規模な水田が点在していたのであろう。

また、屋敷地名が非常に多いことから、水田が家の近くに開かれていたことがわかる。家の周囲に小さな水田が点在している、というのがこの周辺の水田のありかただったのであろう。

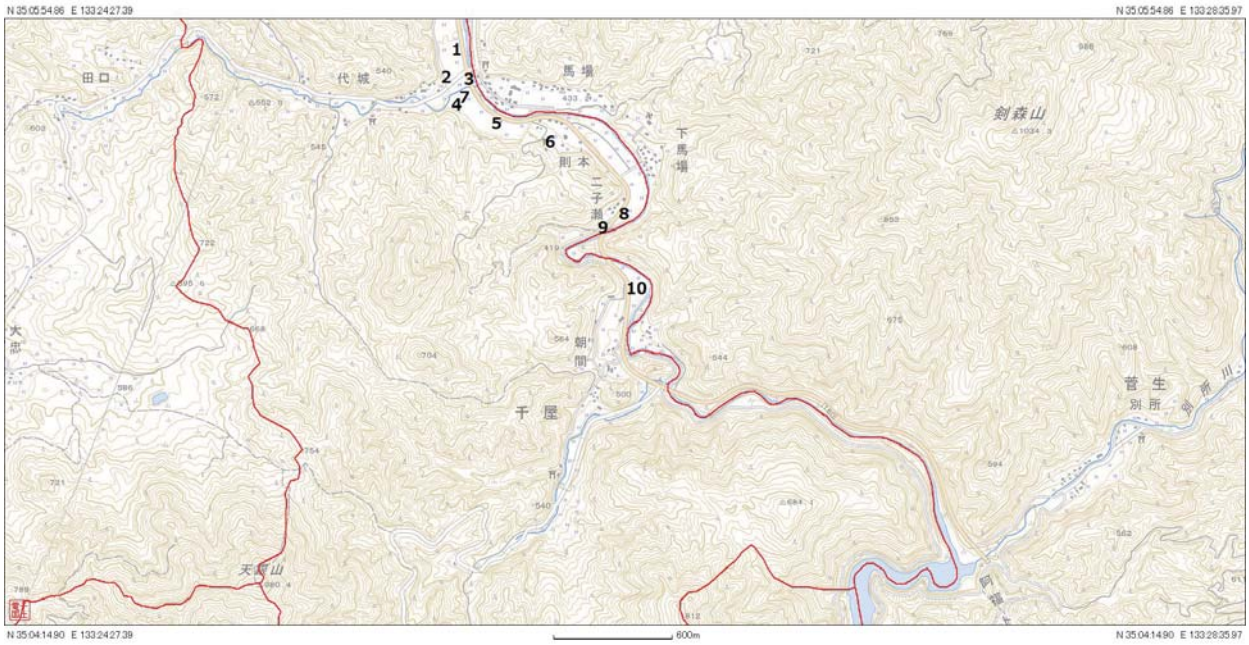
○四月二日

四月二日には、千屋地域の中心部から、坂本地域の石原地区まで、広い範囲で検注が行われている。高梁川流域では、比較的広い水田が把握されており、五反前後のものも散見される。

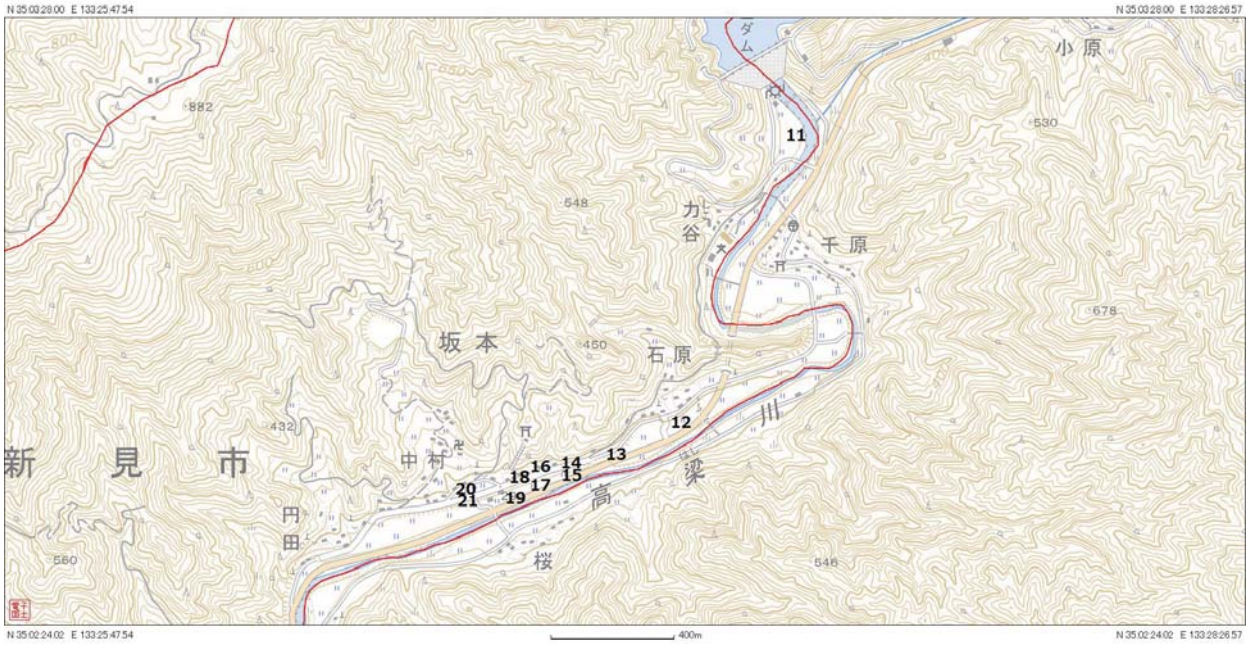
但し、現千屋ダム周辺では水田が把握されていない。三月一七日の検注で台原とウソカイチで把握されたわずかな水田が、すべてであったようだ。

四月二日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	サウサ原	予想	記載順
2	家前	予想	記載順
3	クレチノ前河ヨリ西	予想	記載順
4	ヲトロ屋敷内	ヲトロ	
5	アウセイ	予想	記載順
6	黒田台	予想	記載順
7	ヲトロ	ヲトロ	
8	二御前	二子瀬	
9	古川跡	予想	記載順
10	イカハラ	イカバラ	
11	台原	代井原	
12	坂本石原屋敷前	予想	集落名石原
13	坂本	予想	記載順
14	三日原	予想	記載順
15	三日原河ハタ	予想	記載順
16	三日原家前	予想	記載順
17	三日原	予想	記載順
18	三日原堂前大道下	予想	記載順
19	三日原河ハタ	予想	記載順
20	屋敷内	予想	記載順
21	大道下	予想	記載順



四月二日の検注順路 1



四月二日の検注順路 2

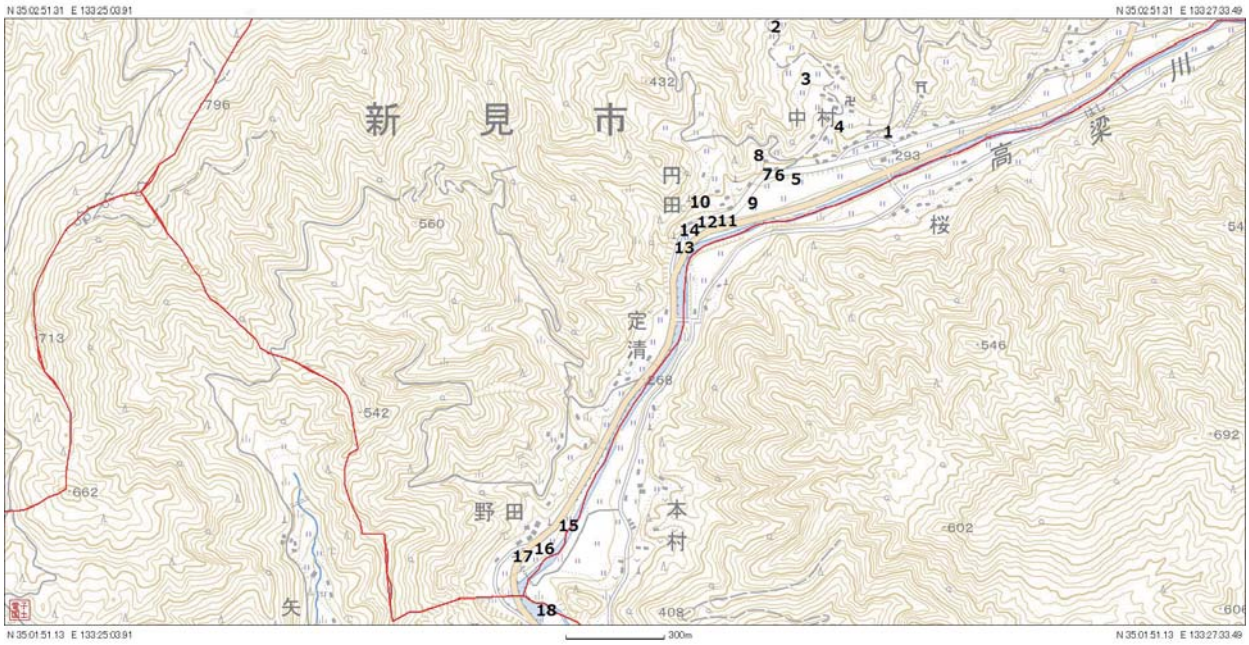
○四月三日

四月三日には、中村地区から、上市地域の横見にかけて、検注が行われている。本田が多く見られることが特徴であり、場所によっては一つの地名に付き、一町を越えるような水田が把握されている場所もある。

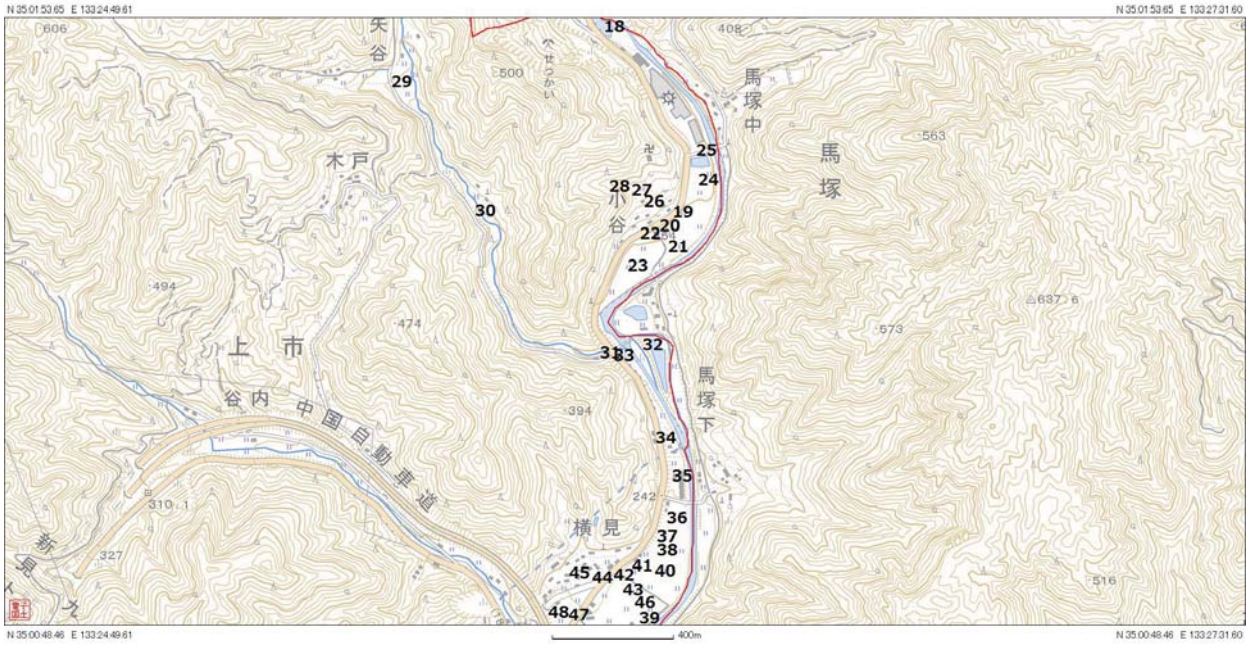
また、翌四日にも検注が行われているが、三日に検注を行っている井ノヲマタのみであるため、四日の地図、表は省略する。井ノヲマタに関しては、三日に水田の、四日には山畠の検注が行われている。行きの畑検注にもれたのであろう。

四月三日の検注地名

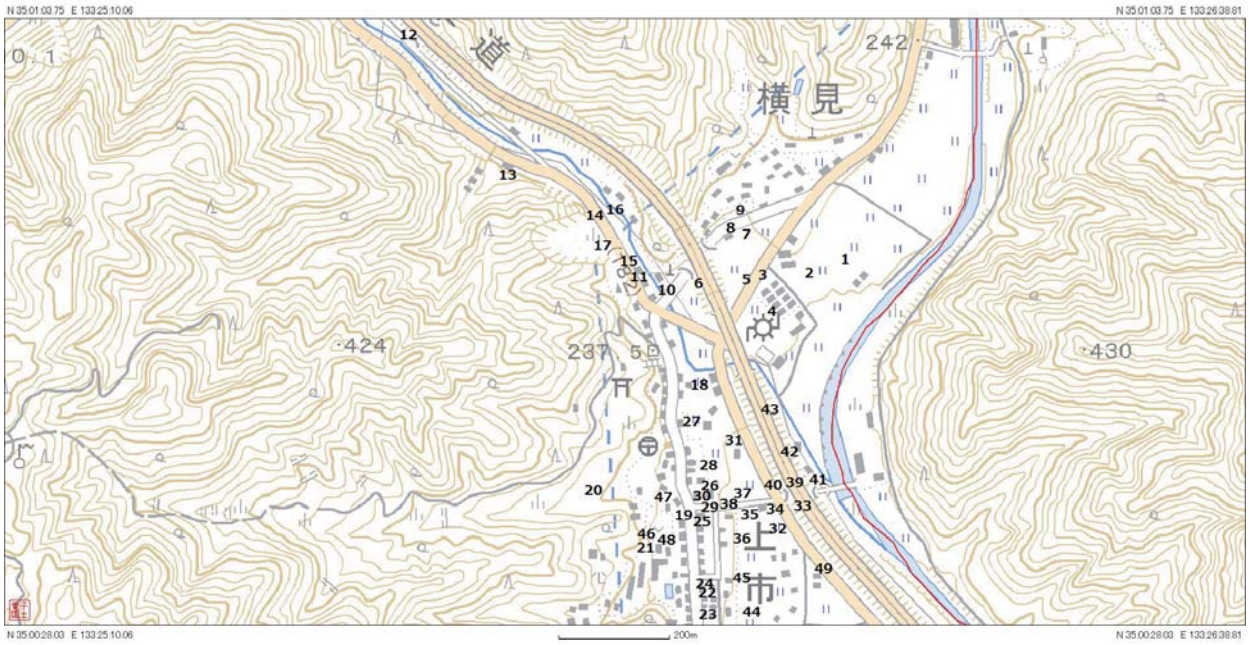
番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	坂本岡	予想	記載順
2	不思谷家上	予想	記載順
3	不思谷	予想	記載順
4	不思谷家前	予想	記載順
5	屋敷前	予想	記載順
6	坂本友貞家前	予想	記載順
7	塩見王子前	予想	記載順
8	後ノサコ	後が迫	
9	塩見谷出口	予想	記載順
10	ヱノ檀家上	集落名円田	
11	ヱノ檀家前	集落名円田	
12	歳原	予想	記載順
13	魚切	魚切	
14	魚切家前	魚切	
15	ナカレ田	流れ田	
16	片樽	片暮	
17	片樽家前	片暮	
18	小谷井手口	井ノ口	
19	屋敷前	予想	記載順
20	大道下	予想	記載順
21	中須	予想	記載順
22	屋敷前	予想	記載順
23	古川跡	予想	記載順
24	森下	予想	記載順
25	竜王前	予想	八大竜王
26	小谷	集落名小谷	
27	屋敷前	予想	記載順
28	小谷	集落名小谷	
29	八谷	集落名矢谷	
30	フルタノ歳前	予想	記載順
31	矢谷出口	予想	集落名矢谷
32	中原	中原	
33	井ノ口	予想	記載順
34	屋敷前	予想	記載順
35	井村	予想	記載順
36	ウシカセ	予想	記載順
37	井ノヲマタ	予想	記載順
38	古川跡	予想	記載順
39	イモノヤ	鋳物屋	
40	カマ田	釜田	
41	横見	集落名横見	記載順
42	大道下	杉田道ノ下	
43	スキ田	杉田道ノ下	
44	田中家前	予想	記載順
45	屋敷内	記載順	予想
46	イモノヤ	鋳物屋	
47	横見宮前	宮ノ前	
48	国主宮前	予想	記載順



四月三日の検注順路１



四月三日の検注順路２



四月五日の検注順路

○四月五日

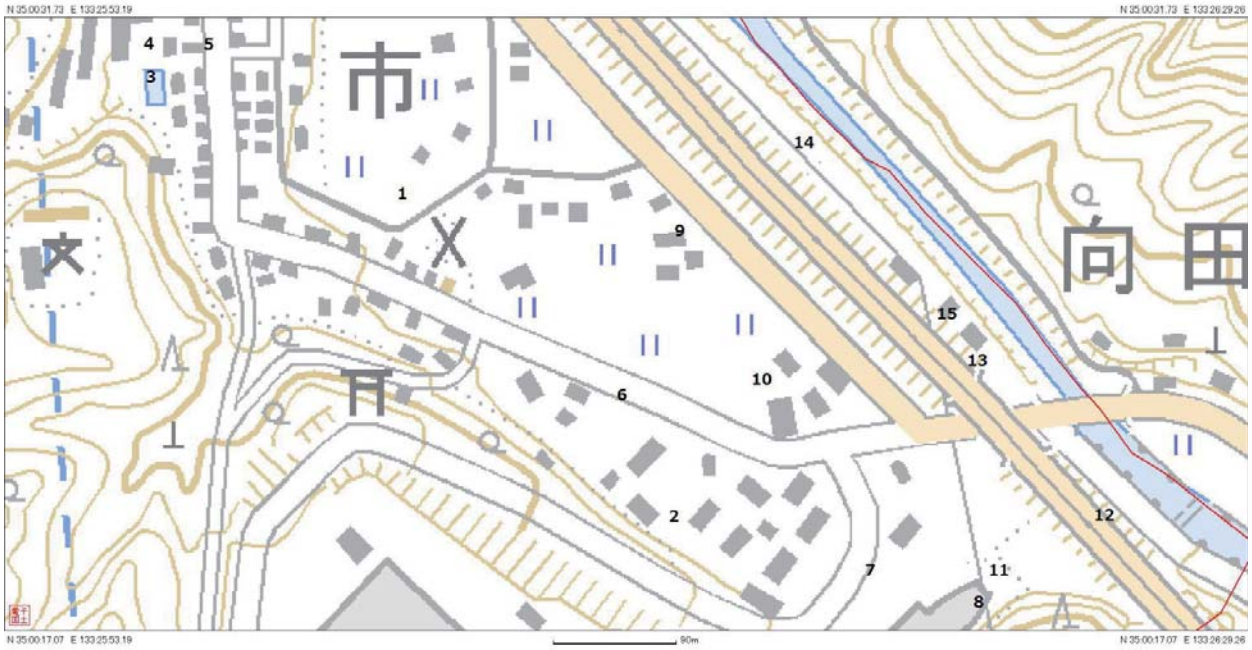
四月五日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	二日市場	予想	
2	江坪	予想	記載順
3	御宮前	宮ノ前	
4	森田	高栗神田	正中検注帳に高栗神田とされている
5	御宮前	宮ノ前	
6	トヤノ鼻	予想	記載順、地形
7	宮上	宮ノ上	
8	明心家前	予想	記載順
9	屋敷内	予想	記載順
10	トヤノ鼻	予想	記載順、地形
11	トヤノ鼻谷ハタ	予想	記載順
12	谷内	集落名谷内	
13	ツフネ出口	粒根	
14	井ノ口	予想	井村への用水路取り入れ口
15	屋敷前	記載順	予想
16	谷内出口	予想	集落名谷内の谷の出口
17	山手	予想	記載順
18	森下	予想	記載順
19	中須屋敷前	予想	記載順
20	温屋谷	予想	記載順
21	寺前	予想	記載順
22	山手	予想	記載順
23	是次家前	予想	記載順
24	屋敷前	予想	記載順

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
25	中須前	予想	記載順
26	屋敷内	予想	記載順
27	藤源二跡	予想	記載順
28	浄ハタ	予想	記載順
29	中須	予想	記載順
30	屋敷内	予想	記載順
31	シミツ	清水元	
32	屋敷内	古町	
33	屋敷前	古町	
34	屋敷内	古町	
35	ソノノ内	予想	記載順
36	シミツ前	予想	旧土地台帳地名清水元の近く
37	シミツ尻	清水元	
38	中須	予想	記載順
39	屋敷前	古町	
40	屋敷内	古町	
41	井の尻	予想	記載順
42	井ノ尻二日市場	古市次	
43	常念前	予想	記載順
44	山戸岐前	予想	
45	ウツノクサ竹後	予想	記載順
46	堂後	堂ノナル	
47	河ハタノ竹後	予想	記載順
48	マトハノ後	西山上馬場	
49	地頭所前	土井	

四月五日には、横見地区から井村地区にかけて検注が行われた。検注が行われた広さに比して、地名が非常に細かく設定されており、多くの人々によって、小さな水田が耕作され、それぞれがそれぞれの地名で水田を呼称していた様子がわかる。

また、多くの免田が設定されており、地頭方の中心地として、様々な利権が設定されていることがよく分かる。



四月七日の検注順路

四月七日の検注地名

番号	検注地名	旧土地台帳	予想の根拠
1	山戸岐前	予想	
2	太歳前	予想	旧土地台帳太才の近く
3	谷ハタノ井ノ田	谷端	
4	ハシツメ	橋詰	
5	ハシモト	予想	記載順
6	太歳前	予想	記載順
7	坂根前	予想	記載順
8	屋敷内	予想	記載順
9	地頭所前	土井	
10	石坪	予想	記載順
11	袋尻	袋尻	
12	ナシカセ	予想	記載順
13	下中須	予想	記載順
14	河ハタ	予想	記載順
15	下中須	予想	記載順

○四月七日

四月七日には、井村地区の南部で検注が行われた。六日と同じく、小さな耕地が多い中で、地頭所前という地名については、二町ほどの水田が把握されており、地頭方の中心地であるということの特徴を、こちらもよく表しているといえよう。

七日の検注は、この後も続いていくが、最初に述べた通り、場所が離れている可能性が高く、十分な検討材料がないため、ここでは地名比定を断念した。

おわりに

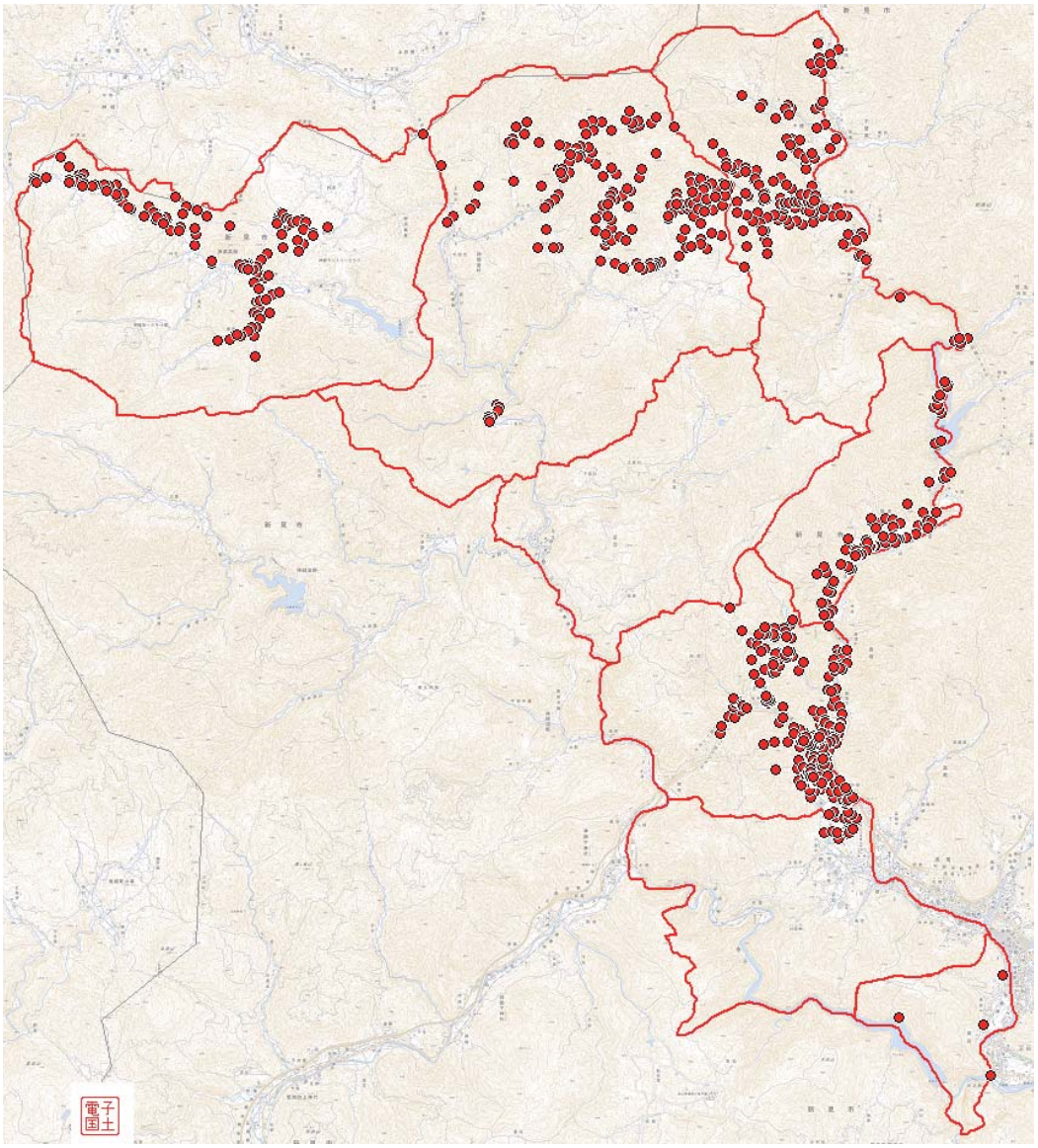
以上、新見荘における正中二年検注帳に見える地名の現地比定作業を行った。これらの作業によって、地頭方の地名分布がかなり詳細に分かったことが本稿の成果である。この地名分布の分析については別項に譲りたいが[15]、これまで地域ごとにおおよその範囲で推定されていた地頭方の領域構成が、かなり詳しく明らかになった。そして、地頭方の領域が明らかになったことで、新見荘全域で地頭方ではない部分、すなわち領家方の領域構成も見えてくることとなった。この成果によって、新見荘の史料を読み込んでいく際に、地理的なイメージを持つことが容易になったといえよう。

しかし、少なからぬ課題を残したこともまた事実である。最初に述べた通り、本稿ではすべての地名の現地比定を目指した。確実とは言えない地名の比定も少なからず存在している。

本稿の成果を検証するには、現地における交通路の調査、近世の検地帳の調査、現地における聞き取り調査などが必要となるが、今回はそれを十分に行うことができなかった。これらについては、今後の課題としたい。

併せて、今回の成果に基づき、新たな聞き取り調査が行われたり、景観復原の研究が行われたりし、また本稿の成果が訂正されるような状況となることを期待したい。そのための前提作業となったならば、本稿の意味はあったといえよう。

最後に、新見荘域において、今回比定した地名の分布を示した地図を掲げ、稿を閉じることとしたい。



新見荘域における正中二年検注地名の分布

注

（1）新見荘に関する先行研究については、「東寺百合文書関係論文目録」（京都府立総合資料館編『東寺百合文書と日本の中世』、京都新聞社、一九九八）や、「東寺百合文書関係論文目録（追加と補遺）」（『京都府立総合資料館紀要』第三六号、二〇〇八）を参照のこと。

（2）東寺百合文書ク函一一～一九号文書。

（3）竹本豊重「新見荘の地名について」（『岡山県史研究』二、一九八一年、以下竹本論文①）、竹本豊重「中世村落景観の復原方法について」（『岡山県史研究』七、一九八四年、以下竹本論文②）石井進編「中世の村を歩く」（『朝日百科日本の歴史』中世Ⅰ・2、一九八六、以下竹本論文③）、同「地頭と中世村落」（『中世の村落と現代』吉川弘文館、一九九一、竹本論文④）同「新見荘」（『講座日本荘園史　九　中国地方の荘園』、吉川弘文館、一九九九、以下竹本論文⑤）など。

（4）浅原公章「新見荘の下地中分」（一）～（二四）（『備北新聞』、一九八一年一一月～）同「文永期の在地構造」（『新見庄・生きている中世・』、一九八三、以下浅原論文①）、『新見市史』通史編上、第四章浅原氏執筆分（新見市『新見市史』通史編上、一九九三、以下浅原論文②）、同「私も関与した備中国新見荘における研究の歩みとその展望」（東寺領荘園連絡会『荘園・郷土史研究報告書』一、一九九四、以下浅原論文③）。

（5）似鳥雄一「下地中分と荘園経営」（『歴史学研究』九一七、二〇一四）。

（6）髙橋傑「鎌倉期における新見荘の地名と下地中分」（海老澤衷・酒井紀美・清水克行編『アジア遊学　中世の荘園空間と現代―備中国新見荘を歩く―』、勉誠出版、二〇一四）。なお、当論文は本稿の作業をもとにしたものである。

（7）岡山地方法務局高梁支局の土地台帳は、明治期と思われる手書きの帳簿で、地番と地名、土地利用が記された台帳である。おそらくは明治初期の地籍調査に関わって、現地の人々から聞き取った地名を載せた帳簿と考えられ、貴重な地名情報が多数載せられている。

（8）新見市役所航空写真図は、航空写真に地番と境界が記入されたものであり、現在の地番の場所を知るには非常に便利である。但し、すべての地域において作成されているわけではないので、これと切り絵図を併用することになる。

（9）新見市役所の切り絵図も、同じく明治の地籍調査に伴って作成された「公図」「地籍図」と考えれる。すべての地番の地図が存在するが、簡易測量で描かれ、方位が記されていないものもあり、地図に落とし込むことは困難な場合がある。しかしながら、直接的に法務局土地台帳と対応する地図として、貴重な物である。

（10）本来であれば、竹本論文②に見える元禄検地帳を用いて、遡及的復原を行った上で、地名比定をも行うべきであるが、現在行方不明となっており参照することができなかった。

（11）竹本論文②、榎原雅治「汎矢野荘の空間構成」（『鎌倉遺文研究Ⅱ　鎌倉時代の社会と文化』東京堂出版、一九九九）、須磨千頴『賀茂別雷神社境内諸郷の復元的研究』（法政大学出版局、二〇〇一）。

（12）東寺百合文書ク函一号～五号。

（13）竹本論文②。

（14）前掲拙稿。

（15）前掲拙稿。

※本論文においては、ＧＩＳソフトに地名データを入力する際に、１／５０００森林基本図をベースマップとして用いた。この森林基本図のデジタルデータ化については、（株）エアロフォトセンター宇都宮毅氏の多大なるご協力を得た。記して謝したい。

The Study of Place Name in Niimi Manor in 1325

Suguru TAKAHASHI

Abstract

A large number of historical records of Niimi Manor in Bitchu Province has been introduced into To-ji in Kyoto, and research utilizing many of these records has been accumulated.

A lot of this research references the place name *Kenchu-Cho*, and it appears in abundance in the historical records.

Kenchu-Toricho was created on the occasion when *Kenchu* was performed, and, depending on the method of the lord of a manor in *Syoucyu*-2 (1325), carries the most detailed name of a place in *Kenchu-Cho* related to Niimi Manor.

Because *Kenchu-Cho* carries the very detailed name of a place, it serves as one of the most fundamental historical records related to place name in research on Niimi Manor.

This comprehensive study was performed with the presumption of the place name being *Syoucyu*-2 *Kenchu-Cho*.

This study verified that *Syoucyu*-2 *Kenchu-Cho* had the fixed route, as reflected in the statement of *Kenchu-Toricho*.

Moreover, through this study the distribution of place names of the territory belonging to the lord of a manor becomes quite clear.

With the lord of a manor's territory becoming clear, it is possible for the composition of the territory of *Ryoke* to be made known.

Through this study, it can become easier to form a geographical picture to accompany Niimi Manor's historical records.